皇學館
皇學館学園報
第83号
令和２年５月

■注目記事

2面
佐古一洌前理事長が逝去
3面
ICT教育を牽引する教員養成をめざす
教職支援講座「電子黒板等ICT機器を活用した授業の見学研修」を実施
4面
令和元年度学位記等授与式を挙行
令和元年度就職状況
高中トピックス　5面
新学校長ご挨拶 ほか
6面
令和元年度教学振興会寄付者芳名
インフォメーション　7面
人事異動、修学支援について ほか
8面
卒業生随想
K-らいふ（全学一体 第166号）
退任によせて ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大　学
大学院 専攻科 | 文学部　教育学部　現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201㈹　FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577　TEL 0596-22-0205㈹
[中学] 〒516-8588　TEL 0596-23-1398㈹

741名が学科別の入学式

令和２年度 皇學館大学入学式

令和二年度皇學館大学入学式が四月三日に挙行され、大学院十二名、神道学専攻科十八名、学部七一〇名、編入学一名の計七四一名が入学した。新型コロナウイルスの国内感染が拡大しつつある状況を踏まえ本学記念講堂での式典・神宮参拝は中止。会場を学科別に分散しての開催となった。

学科別に分かれ、小規模体制で挙行された四月三日の入学式は各教室で午前十時に始まった。新入生は全員マスクを着用し、入り口で手を消毒、間隔をあけて着席するなど万全の感染防止対策がとられた。式の冒頭、学部長または学科主任から祝いの言葉をかけられると新入生たちは緊張がほぐれた様子を見せたが、令旨奉読では引き締まった表情で聞き入るなど早くも皇學館生としての自覚を強めたようだ。なお、本来、式典で直接語られるはずだった学長式辞、理事長告辞、神宮大宮司祝辞は冊子にまとめ全員に配布された。

学生たちは「学芸員になりたい」（国史）、「学業だけでなく、ボランティア活動やアルバイト等学生生活も楽しみたい」「教員になりたくて本学を選んだ」（教育）、「野球部に入部する予定。将来は警察官をめざしたい」「福祉分野に興味があり、社会福祉士国家試験受験資格が得られる本学に決めた」（現日）、「英語を使う仕事に就きたい」（コミ）など、これから始まるキャンパスライフへの期待に胸を膨らませていた。

マスクを着用して各学科の入学式に臨む入学生

上／メイヨー教授による参拝指導
下／写真スポットで記念撮影をする新入生

理事長告辞

学校法人皇學館　理事長　小串和夫

ご入学おめでとうございます。我々は心から諸君を歓迎致します。

皆さんを前にして、私は凡そ五十数年前の本大学の入学当時を思い出します。希望と不安、それも後者の方が勝っていたような気がします。しかし学生生活を続けていく中で、多くの先生に教えを受け、良き友と交わり、また伊勢の地の豊かな自然に身を置くことにより、『吾れ生けるしるしあり』と感じたものであります。

本学は、創立百三十有余年の輝かしい歴史を持っており、その建学の精神は古来より脈々と伝えられて来た我国の正しい道の継承・探究そして実践にあります。

神宮ご鎮座のこの伊勢の地は、『元々本々』すなわち、はじめをはじめとし、本を本とする神道の根本精神を伝えています。諸君は必ずや日本人の自覚にめざめて下さると確信して止みません。

これからの四年は、長いようでまた短い期間でもあります。

我大学の精華寮々歌にあります如く、『世の喧騒を他所にして、理想に進む若人』として、まずそれぞれが目指すところの学問に専念し、併せて心を練り身体も鍛えて下さい。

神道の精神に則り、常に謙虚な姿勢を忘れず、しかも日々着実、積極的に歩みを進め、省みて悔いのない青春を送られますことを切に願い、告辞と致します。

新理事長に小串和夫氏が就任

学校法人皇學館は佐古一洌氏の理事長辞任を受け、令和二年三月二十五日開催の理事会において熱田神宮名誉宮司の小串和夫氏を理事長に選任した。

任期は同二年三月二十六日から同四年八月二十六日。

小串氏は三重県桑名市出身。昭和四十一年三月に本学文学部国史学科を卒業。再興後の一期生にあたる。その後、乃木神社、多度神社（現多度大社）、熱田神宮の宮司を歴任。昭和五十八年に本法人・大学評議員に就任して以降、平成十年に理事、同十一年に常任理事、同十五年からは副理事長を務めた。

小串和夫●おぐし かずお
昭和18年９月26日生・76歳

昭和41年３月	皇学館大学文学部国史学科卒業
昭和41年４月	乃木神社奉職
昭和54年１月	乃木神社宮司
昭和58年６月	学校法人皇学館大学評議員就任（現在に至る）
昭和60年８月	多度神社宮司
平成６年５月	熱田神宮権宮司
平成９年12月	愛知県神社庁理事（平成10年６月迄）
平成10年８月	学校法人皇学館大学理事就任（現在に至る）
平成10年12月	熱田神宮宮司（平成30年９月迄）
平成11年４月	学校法人皇学館大学常任理事就任（平成21年３月迄）
平成12年12月	愛知県神社庁長（平成29年９月迄）
平成15年４月	学校法人皇學館副理事長（令和２年３月25日迄）
平成15年８月	皇學館館友会会長（平成29年12月迄）
平成22年６月	神社本庁副総長（平成29年８月迄）
平成26年１月	株式会社神社新報社取締役会長（現在に至る）
平成30年９月	熱田神宮名誉宮司（現在に至る）

新型コロナウイルスに関するお知らせ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。五月十五日、三重県の鈴木英敬知事より「三重県指針」～命と健康を守るために～が発表されました。これは、〝新しい生活様式〟を実践し感染拡大を防止する抵抗力を身に付けながら、社会経済活動の維持・発展にしなやかに対応していこうというものです。

本学では、その方針に従い、学生・教職員の安全に配慮しながら、学生の進級・卒業等に向けオンラインでの授業を行いつつ、対面授業の開始に向け、準備を進めています。また、来場される方々の健康・安全確保のため各種防止対策の徹底を図りつつ、講演会・シンポジウム等の開催を慎重に検討しています。イベントごとに対応が決まり次第、本学ホームページ等でご案内する予定ですので、引き続きウェブサイトの情報をご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

倉田山春秋

近代になってからの疫病は制圧できるものという過信が怖い▼古代から疫神鎮めの祭祀は重要なものとして位置づけられてきた。大和の大神神社と狭井社で執り行われる鎮花祭は「はなしずめ」と呼ばれ、これを怠らないよう罰則規定まで設けられた▼鎮花祭は、春の花が散るときに花びらとともに疫神が分散する、という考え方に基づくものだったらしい（令義解）。生物学的なウイルスや細菌に関する知識を持たなかった古代の人々も、ひらひらと舞い散る花びらを疫神が広がる様として捉えたようだ▼伊勢志摩にも古くから「蘇民将来子孫家門」の木札をしめ縄とともに一年中掛けておく風習がある。これは、京都の八坂神社を始めとする祇園社の疫神鎮めと起源を同じくするものだろう▼疫神すなわち疫病神というのは現代では厄病神と書かれるように、あらゆる災難を引き起こす存在のたとえになっているが、災難の代表は疫病だった▼公衆衛生の観念が行き渡っているであろう現代の日本だからこその油断がなかったか。疫神を鎮める気持ちで用心深く暮らすことの大切さを学んだ出来事である。

佐古一洌（かずきよ）前理事長が逝去

本法人前理事長の佐古一洌氏が四月二十三日、逝去された（享年八十歳）。

佐古前理事長は、出身地の岩国の高校を卒業後、國學院大學に進まれたが、厳父の「一洌は神社界に、神宮皇學館に進ませるように」との遺言もあり、再興された本学に昭和三十八年に二年生として国史学科に編入学された。学部、大学院を通して、谷省吾先生に師事され、神宮祀官の研究をテーマとし、昭和四十四年大学院修了後は、神宮に奉職、神宮文庫等で主に教学を担当されている。

在学時に講師で来学されていた松尾大社の河田晴夫宮司（本科三十七回）の誘いを受け、昭和五十三年から松尾大社に移られ、平成四年に宮司に就任（平成二十五年三月まで）。平安京遷都千二百年記念事業として、宝物館を改修、京都国立博物館に寄託となっていた重要文化財の御神像の常設展示を実現された。さらには、平成十三年の御鎮座千三百年祭に併せて、社殿・境内地の整備を図るとともに、同社の酒造りの御神徳の顕彰を目的とする醸造文化顕彰会「醸（じょう）の会（かい）」を設立されており、前理事長の面目躍如といえる。また、京都府神社庁副庁長を九年間務められ、平成十六年に神職身分特級に昇進された。さらには、御母堂佐古幸嬰（さこゆきえ）先生が創設された「神道講演全国協議会」の中心となって、神道講演の実践と講演講師育成にあたられ、平成二十三年には会長に推されている。

平成二十年八月に、本法人理事長に就任（本年三月まで）され、懸案となっていたキャンパスの統合を図り、平成二十四年の創立百三十周年・再興五十周年記念事業として教育研究棟（六号館から九号館）の増築、財政基盤の確立のため「教学振興会」の再発足など、さらなる学園発展の基盤づくりに尽力された。

また、神道講演で培われた話術でもって、役員会、大会などでの理事長挨拶に魅了された館友も多く、大会参加の楽しみとなっていたことは、つとに知られるところである。

生前の学園運営へのご貢献に感謝申し上げ、教職員一同哀悼の意を表します。

略　歴

昭和41年３月	皇学館大学文学部国史学科卒業
昭和44年３月	皇学館大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程修了
昭和44年４月	神宮出仕
昭和53年３月	神宮権祢宜
昭和53年４月	松尾大社祢宜
平成元年12月	神宮評議員
平成４年３月	松尾大社宮司
平成４年４月	京都府神社庁副庁長
平成９年４月	学校法人皇学館大学評議員
平成10年７月	京都府神社庁駐在教誨師
平成16年２月	神職身分特級
平成20年８月	学校法人皇學館理事長就任
平成23年７月	神道講演全国協議会会長
平成25年４月	松尾大社名誉宮司
令和２年３月	学校法人皇學館理事長退任

令和２年度 CLL活動

CLL（Community Learning Labo）活動は、伊勢志摩圏域を中心に三重県内の地域課題について体験を通して学ぶ学修プログラム。昨年度は28活動で、のべ250名の学生が携わった。今年度は以下のプロジェクトを計画している。

新　規

- 若者の投票率アッププロジェクト
- 『謎解き×地域の課題解決』のイベント企画プロジェクト
- ハピふるプロジェクト ～とっておきの居心地づくり～
- えりはらのぱんやさん
- 発信しよう！ 障がい者福祉施設の魅力（学生向けPR冊子製作による障がい者福祉施設の情報発信プロジェクト）
- 若者への「スマホでみえ得キャンペーン」利用促進プロジェクト
- 竈方集落（限界集落）デザインプロジェクト

継　続（予定）

- 伊勢やまだ地方創生まちづくりゼミ
- 皇學館みらい対話団
- 防災のための大湊地域資源発掘プロジェクト
- 度会カフェリョクプロジェクト
- 南伊勢町UAV（ドローン）防災活用プロジェクト
- 伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発プロジェクト
- だんだんお花畑プロジェクト in 玉城町
- TMMF（玉城ミュージックモンスターフェスティバル実行委員会）
- 産学官連携日本酒プロジェクト
- あばばい ―伊勢志摩国立公園学生部会―
- 着ぐるみ（伊勢まいりん）を使用した伊勢市観光事業のPR活動
- ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト
- 子どもと家庭の応援団
- The Histories of Ise 行政文化資源の利活用
- みんなの声を聞くには? プロジェクト
- 新聞カフェ
- 伊勢おもてなしヘルパープロジェクト
- TMKミライデザインプロジェクト（玉城町下外城田明るい未来推進プロジェクト）
- 伊勢おはらい町防災プロジェクト
- 南伊勢地域連携日本酒プロジェクト
- 伊勢市中心市街地ロゲイニング
- 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト
- 若者へのゴミ分別啓発!!
- 南伊勢　ドローンによる空き家対策プロジェクト
- 農業の魅力発見！ 南紀みかん援農隊プロジェクト
- 宇治山田商業高校課題研究（商品開発）サポータ

CLL活動×伊勢市

「広報いせ」が読売新聞社賞受賞

全国広報コンクール

自治体の優れた広報作品を表彰する全国広報コンクールにおいて、伊勢市と本学のCLL活動「広報いせ」特集記事制作プロジェクトがタッグを組み手掛けた「広報いせ」（平成三十一年四月一日号・№256）（本紙七十九号参照）が読売新聞社賞を受賞した。地方自治体の広報活動向上に寄与することを目的に昭和三十九年に始まった同コンクール。読売新聞社賞は地域の課題やニーズ、人物等を積極的に取り上げ、住民の目線を生かした特に優秀な作品に贈られる。受賞した「広報いせ」ではプロジェクトメンバーの学生が社会実験運航中の市内循環バスを利用し、伊勢の楽しみ方や新生活で知っておきたい場所を学生目線で取材・紹介。お得なクーポン購入割引券を表紙に付けるなど、幅広い世代の市民に「見て・読んで・役立ててもらう広報紙」になるようアイデアを盛り込んだ。担当する本学教育開発センターの池山敦准教授は「地域課題など掲載記事についても同時に学べる、非常に教育的効果の高いプロジェクト」と評価する。なお、同プロジェクトは今年度も継続して活動する予定だ。

学生支援部教職支援担当嘱託職員

牛江　美穂（うしえ　みほ）

❶三重県◆関西大学文学部卒
❷スポーツ観戦
❸笑う門には福来る
❹学生一人ひとりに寄り添った対応を心掛けてまいります。

学生支援部教務担当嘱託職員

池田　雪絵（いけだ　ゆきえ）

❶三重県
❷旅行
❸急がば回れ
❹学生の方々が有意義な学生生活を送れるようサポートし、日々努力してまいります。

研究開発推進センター嘱託職員

山口　明美（やまぐち　あけみ）

❶三重県
❷ショッピング
❸判断する前に、受け入れる。
❹何事にも楽しんで取り組み、日々成長し続けるよう頑張ります。

学生支援部学生担当嘱託職員（精華寮）

大木　雅人（おおき　まさと）

❶佐賀県◆皇學館大学大学院教育学研究科修士課程修了
❷ウエイトトレーニング
❸前向き
❹寮の学生が充実した生活を送れるよう精一杯サポートしていきます。

皇學館高等学校

高等学校常勤講師（国語）

中田　遼（なかた　りょう）

❶三重県◆皇學館大学文学部国文学科卒
❷野球
❸臥薪嘗胆
❹生徒とともに成長していけるよう精一杯頑張ります。

高等学校常勤講師（英語）

中村　友彦（なかむら　ともひこ）

❶三重県◆同志社大学文学部英文学科卒
❷読書、散歩　❸七転び八起き
❹生徒一人ひとりの目標実現にむけて精一杯努力いたします。

高等学校常勤講師（地歴）

切通　規裕（きりどおし　のりひろ）

❶静岡県◆皇學館大学大学院文学研究科国史学専攻博士前期課程修了
❷弓道、航空史研究、クラシック音楽鑑賞
❸塵も積もれば山となる
❹生徒とともに成長できるように精進します。

高等学校常勤講師（理科）

松村　峻佑（まつむら　しゅんすけ）

❶三重県◆近畿大学理工学部卒
❷ネットサーフィン
❸笑いは人の薬
❹生徒が充実した高校生活を送れるように精一杯頑張りたいと思います。

皇學館中学校

中学校常勤講師（国語）

安井　英里子（やすい　えりこ）

❶三重県◆皇學館大学文学部国文学科卒
❷ドライフラワー制作
❸足るを知る
❹いつも感謝の心を持ち、生徒一人ひとりに寄り添う教員でありたいです。

学校事務室嘱託職員

三好　良夫（みよし　よしお）

❶三重県◆三重大学教育学部卒
❷トレッキング
❸努力はウソをつく。でも無駄にはならない。
❹生徒のみなさんの夢実現に向けて、精一杯頑張りたいと思います。

全学部で志願者増↗
令和２年度 本学入試状況

令和２年度の入学試験では文学部・教育学部・現代日本社会学部の全学部で志願者が増加し、総志願者数は前年度比113.6%となった。その中でも特に神道学科が高い人気を集めて前年度比124.3%、現代日本社会学部は３年連続志願者増を達成するなど、各学部の躍進を感じることができる結果となった。

学部・学科	募集人員	志願者数	合格者数	競争率
神道学科	60	330	138	2.4
国文学科	80	351	183	1.9
国史学科	80	326	191	1.7
コミュニケーション学科	80	332	196	1.7
文　学　部	300	1,339	708	1.9
教育学部	200	983	414	2.4
現代日本社会学部	120	392	242	1.6
大　学　計	620	2,714	1,364	2.0

令和２年度入試より募集人員を変更。神道70→60名、教育210→200名、現日100→120名

令和最初の勤労奉仕団として

皇學館大学の皇居勤労奉仕は昭和51年より行われ、今回で23回目と長い歴史を有している。奉仕団は、皇居及び赤坂御用地での清掃奉仕を通じ、我が国・民族の歴史・文化の淵源である御皇室と国柄への理解を深め、愛国心と恋闕心（れんけつしん）を涵養することを目的とした有志学生の集まりである。記念すべき令和の最初の奉仕となった今回は２月17日から20日まで４日間の日程で行われ、全学年学部より24名が志願した。勤労奉仕中には畏れ多くも天皇陛下より御会釈を賜り、併せて御下問とねぎらいの御言葉を賜った。本学についての御下問の後、昨年行われた神宮親謁の儀に臨まれた際の御幸道路に於ける奉送迎に対し感謝の御言葉を賜り恐懼感激の極みであった。また聖寿万歳の発声の命を受け、張り詰めた緊張の中もこの大役を務めた。貴重な場に立つことは誇り高き本学の精神と諸先輩方のご努力によるものと感じ入り、改めて尊敬と感謝の言の葉を贈りたい。令和の御代へと時代は移りゆくも本学学生の皇室への畏敬の念は変わることは無い。次年以降も皇居勤労奉仕を伝統とし、この精神が引き継がれる事をここに願う。

皇居勤労奉仕団 団長　齊藤北斗（神道４年）

ICT教育を牽引する教員養成をめざす

教職支援講座「電子黒板等ICT機器を活用した授業の見学研修」を実施

教員をめざす学生を対象に、二月十七日、十八日の両日、皇學館中学校にてICT機器を活用した授業の見学研修会を開催した。

文部科学省が令和元年に公表した「教育の情報化に関する手引」によると、「（略）これからの学びにとっては、ICTはマストアイテムであり、ICT環境は鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠なものとなっていることを強く認識し、その整備を推進していくとともに、学校における教育の情報化を推進していくことは極めて重要である」とされている。また、小学校では今年度、中学校では令和三年度から全面実施される新学習指導要領の「総則」においても、情報活用能力は学習の基盤としての資質・能力であり、教員によるICT活用の重要性が示されている。

そこで本学では教員をめざす学生を対象に、二月十七日、十八日の両日、皇學館中学校にてICT機器を活用した授業の見学研修会を開催した。皇學館中学校では全教室にプロジェクターを完備しているほか、タブレットを活用した授業や海外の学校とのインターネット通話交流など、すでに先駆的な取組みを始めている。生徒たちの指導にあたっている先生方から機器の説明や活用の仕方を学んだ学生たちはICT教育の可能性の大きさ、広がりに感銘を受けた様子で、熱心に質問していた。以下に学生から寄せられた感想を紹介する。

学生による模擬授業後、内容についてディスカッションし、先生方からご指導をいただいた

学生の声

- 効果的なICTの使い方がわかりとてもヒントになった。何が必要で何が不要かの基準を学んだ。
- ICTを補助機器として自分の授業を作れるよう努力したい。
- ICT機器は児童のより深い学びのために有効的な活用ができるが、頼りすぎないようにしたい。
- ICT教育の目指すものが多方面に広がり、現場は戸惑うことが多いと思う。その中でモデルを見せていただくことができよかった。
- 今まで自分が受けた授業とは全く違う進め方になっていた。理解しづらかった部分が理解できてよかった。ICT教育の様々な可能性について、ディスカッションしたことを実現させたい。

先生方から説明を受け、自分ならどのような内容で活用するかを話し合う学生たち

梅田優歩さん（院・史）が斎王に

本学大学院文学研究科国史学専攻生の梅田優歩さんが明和町の一大イベント「斎王まつり」の主役である第三十六代斎王に十七名の中から見事選ばれた。

応募のきっかけは「明和町郷土文化を守る会」で講師を務めたこと。地域の歴史を大切にして伝えていこうとの受講生の強い気持ちを知るにつれ発信のお手伝いがしたいと思い、また受講生からも勧められたという。

平安絵巻さながらの群行が見られ大勢の観客で賑わう斎王まつり。今回は新型コロナウイルスの影響で開催中止という残念な結果となったが、梅田さんは「選んでいただき、中止が決定するまで苦労・工夫しながら準備をしてくださった斎王まつり実行委員会に感謝している。地域の歴史文化を尊ぶ町民の存在や歴史の深さを肌で実感できる点が明和町の魅力だと考えており、皇學館大学の大学院生として違う形で貢献できれば」と前向きに語った。

プロフィール写真の撮影は友人が協力してくれたそうだ

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します

❶出身地・経歴等 ❷趣味・特技等 ❸座右の銘 ❹一言メッセージ

皇學館大学

国文学科助教
吉井　祥（よしい しょう）

❶群馬県◆元お茶の水女子大学基幹研究院リサーチフェロー
❷散歩　❸我以外皆師　❹いただいたご縁を大切に、精進してまいります。

国史学科助教
谷戸　佑紀（たにど ゆうき）

❶三重県◆皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程修了・博士（文学）、元皇學館大学非常勤講師
❷旅行、聞いているふり
❸科に盈ちて後進む（かみ みちすす）　❹一所懸命に頑張ります。よろしくお願いします。

コミュニケーション学科准教授
栗野　理恵子（くりの りえこ）

❶三重県◆元名古屋産業大学現代ビジネス学部准教授
❷ピアノ、ヴァイオリン、旅行
❸Where there's a will, there's a way.
❹心の健康づくりに貢献する教育・研究に取り組んでいきたいです。

教育学科助教
萩原　浩司（はぎわら こうじ）

❶三重県◆三重大学大学院教育学研究科修了、元四日市市立泊山小学校教諭
❷古書店巡り、美術鑑賞
❸継続は力なり
❹学ぶことの面白さが実感できる授業を、心がけて頑張りたいと思います。

教育学科助教
澤　友美（さわ ともみ）

❶三重県◆皇學館大学大学院教育学研究科修士課程修了
❷山登り、海外旅行
❸進不求名、退不避罪
❹学生の皆さんが将来に希望を持って卒業できるよう、研究・教育活動に励みます。

現代日本社会学科助教
尾﨑　剛志（おざき たけし）

❶三重県◆佛教大学大学院博士後期課程満期退学
❷ツーリング（バイク）　❸なるようになる
❹楽しみながら、学生と共に学び、成長していきたいと思います。

研究開発推進センター神道研究所助教
塩川　哲朗（しおかわ てつろう）

❶静岡県◆國學院大學大学院文学研究科博士後期課程修了、元國學院大學研究開発推進機構PD研究員
❷欧州フットボール、映画
❸慎みて怠ることなかれ
❹神道研究の中心地・伊勢で研究と教育に誠心をもって勉めます。

学生支援部学生担当書記補
大東　奈央（おおひがし なお）

❶三重県◆皇學館大学教育学部教育学科卒
❷スポーツ観戦、体を動かす、バレーボール
❸初心忘るべからず
❹何事も一生懸命に取り組んでいきます。よろしくお願いします。

学生支援部教職アドバイザー嘱託職員
米山　公美（よねやま きみよし）

❶三重県◆皇學館大学文学部国史学科卒、元小学校長
❷庭いじり
❸我以外皆師
❹教職の経験を活かし、一生懸命に学生の皆さんの支援にあたります。

規模を縮小して式典開催

令和元年度 学位記・修了証書授与式

三月十八日に執り行われた令和元年度学位記・修了証書授与式は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から当日の神宮参拝や全卒業生、修了生が集う本学記念講堂での式典を中止。本部大会議室にて総代と各種表彰者計二十名のみが参列する、規模を縮小しての開催となった。

全員がマスクを着用して式典に臨んだ

令和最初の卒業生は計六八六名

令和最初の卒業生となったのは三学部六六一名、神道学専攻科十一名、大学院十四名の計六八六名。十一時に始まった本部大会議室での式典では河野訓学長より総代に学位記等が交付され、表彰者には賞状が手渡された。その他の卒業生・修了生は教室で授与。直接述べられる予定であった河野学長の式辞、佐古一洌理事長（当時）の告辞、小松揮世久神宮大宮司、千秋季賴館友会会長の祝辞は書面にて学位記・修了証書と共に一人ひとりに届けられた。

新たな道を歩む卒業生に対し河野学長は「皇學館で身に付けたことを糧に地域社会や国家に有用な人材に」と期待の言葉を述べ、最後に「感謝する気持ちと謙虚さを忘れることなく、広く周りに安心と勇気、希望を与えられる人間になっていただきたい」と熱いメッセージを送られた。

恩賜奨学賞を受けた奈良奏美さん（国文）は教員としてのスキルアップをめざし本学大学院への進学を決めたと話し、「伊勢神宮に近い神聖な雰囲気の中、先生や仲間など人の繋がりに恵まれた四年間だった」と学生生活を振り返った。大宮司賞に選ばれた内山裕加里さん（現日）は四月から松阪市役所職員として働くにあたり、「授業やゼミ、ＣＬＬ活動で学んだ経験を生かし、地域に貢献したい」と抱負を語った。同じく大宮司賞を受賞した荒木美来さん（教育）は「先生になる夢をかなえていただいた」と笑顔で話し、「教科書に書いてあることだけではなくその背景にも触れ、知的好奇心をくすぐる面白い授業ができれば」とやる気をみなぎらせた。例年にない形での式典になったことについては「規模縮小は仕方がないこと。その中でもこうして式を開催してくださったことに感謝したい」と話した。

奈良奏美さん

内山裕加里さん

荒木美来さん

令和元年度 学位記・修了証書授与式 受賞者等一覧

博士の学位授与	乙号（論文博士）	角鹿尚計
総代	文学研究科国文学専攻博士前期課程	陳琰
	教育学研究科教育学専攻修士課程	澤友美
	神道学専攻科	松隈侑加
	文学部神道学科	神谷萌日
	文学部国文学科	梅山瑞加
	文学部国史学科	前川莉奈
	文学部コミュニケーション学科	辻井麻伽
	教育学部教育学科	堀尾史織
	現代日本社会学部現代日本社会学科	谷口紗緒里
恩賜奨学賞	文学部国文学科	奈良奏美
大宮司賞	文学部国文学科	堀井美里
	教育学部教育学科	荒木美来
	現代日本社会学部現代日本社会学科	内山裕加里
理事長賞	文学部コミュニケーション学科	青木天平
学長賞	文学部国史学科	木村一貴
統理賞	神道学専攻科	堀江一宏
	文学部神道学科	吉田健真
長谷奨学賞	文学部神道学科	内堀詔太
	文学部神道学科	河原正知
社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	現代日本社会学部現代日本社会学科	鈴木里佳
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	現代日本社会学部現代日本社会学科	成田茉那美
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰	教育学部教育学科	山中優花

就職者ボイス 神職編

早めの準備がカギともいえる就職活動。今回は神職への奉職を叶えた先輩たちの声を紹介します。

❶志望理由
❷成功の秘訣・工夫
❸後輩へのアドバイス

芦澤　蕗（神道）
【奉職先】愛知県神社庁

❶授業や神社庁の方の講義、講習会を通して神道教化について学び、事務職という立場から神社界を支えたいと思った。
❷神職養成部と密に連絡を取り合った。部活で神職や職員の方と実際の職務について話す機会があり、意志を固めることができた。
❸神職・巫女・事務のいずれに進みたいのか、早く決めておくと良い。奉職したい神社を参拝し、自分の目で確かめておくこと。在学中に奉仕に積極的に参加すると経験が積め、面接での話題にもつながる。

小川　実祐（神道）
【奉職先】今宮戎神社

❶小学生のときに神社のお祭りで舞う機会があり、神社に関心を持つようになった。また実習を受ける中で神職の仕事に魅力を感じた。
❷神職養成部の方にたくさん相談すること。どんな悩みでも養成部の先生は親身になって助けてくださる。求人は地域を限定せず、こまめに見に行った。
❸学年を気にせず、奉仕の案内が来たら積極的に参加することが大事。現場でたくさんのことが吸収でき、また実際に神社に奉職する感覚もつかめる。

金居　命良（神道）
【奉職先】寒川神社

❶神主をしていた曽祖父に憧れて。祖父母に連れられ歴史的建造物を巡るうちに日本の歴史に関わる職に就きたいと思った。
❷行き詰まることがあれば神職養成部に相談すれば大丈夫。
❸できるだけ多くの神社へ奉仕すること。社家ではないことに悩んだが、実際は神社界で社家を理由に優遇されることはなく、個人の努力を見てくれる。安心して頑張ってほしい。神道関係の書物を読んでおくと神職の方の会話についていけると思う。

田中　敬介（神道）
【奉職先】賀茂別雷神社（上賀茂神社）

❶参拝した際、神職の立ち居振る舞いに感銘を受けた。また、穏やかで荘厳な境内に足を踏み入れると自然と身が引き締まり、清々しい気持ちになった。いつ参拝しても同じ気持ちになり、この神社で神明奉仕ができたらと思うようになった。
❷神職養成部が支えになってくれた。行きたい神社の募集がなかったり、早々に募集を締め切られることもあるので数多くの神社を参拝し、奉職したいと思える神社を複数社見つけるようにした。
❸様々な神社に足を運ぶことが大切。実際に発見したり感じたことを履歴書に生かすことができるだけでなく、奉職への意欲も高まる。

就職内定率98.0%　令和元年度 卒業生就職状況

令和元年度学部卒業生684名（８・９月卒業生を含む）の就職状況は、就職希望者592名のうち就職決定者は580名となり、就職希望者に対する内定率は98.0%となった。

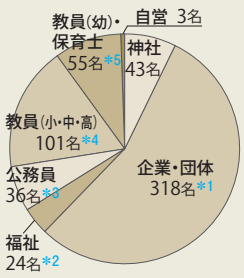
※学科別就職率、分野別就職者については別表参照

神社関係
43名が奉職

求人神社数163社274名（男子192名、女子53名、男女問わず29名）に対し、奉職状況は神道学科が男子30名・女子９名、国文学科が男子２名・女子１名、国史学科が男子１名となった。神道学専攻科等の学部以外は男子６名・女子２名であった。

教職関係
三重県小学校・合格者占有率は県内大学で８年連続トップ

小・中・高の教員に101名（正規／公立37名・私立３名、講師61名）、幼稚園・保育園へは55名（正規／公立23名・私立31名、臨時１名）が就職した。三重県小学校については全合格者240名中、本学は過年度卒業生を含め90名と合格者占有率は37.5%を占め、８年連続県内大学でトップを堅持している。



*1 うち４名は臨時
*2 うち１名は臨時
*3 うち３名は臨時
*4 うち61名は講師
*5 うち１名は臨時

公務員関係
36名が採用

国家公務員５名【自衛官（３）・刑務官（２）】、地方公務員31名【三重県・四日市市役所・津市役所・松阪市役所（３）・伊勢市役所・志摩市役所・尾鷲市役所、明和町役場・度会町役場・多気町役場・森町役場、津市消防本部・紀勢地区広域消防組合・各務原市消防本部、地域おこし協力隊、警視庁・三重県警（12）・和歌山県警】が採用された。

企業関係
企業・団体へ318名が決定

業界別では、卸・小売業34.0%、建設・製造業11.5%、情報通信業10.6%、金融・保険業6.2%、教育・学習支援業3.7%、サービス業・その他34.0%となっている。

今年度の就活環境
新型コロナの影響で状況大きく変化

新型コロナウイルスの影響により、令和３年卒学生（現４年生）の就職・採用に関する状況は大きく、急速に変化している。政府の自粛要請により合同企業説明会等の就活イベントの中止が相次ぎ、選考スケジュールが一時的に中断したが、企業の多くは WEB 上での会社説明会や選考に切り替え、実施する様子が見られた。企業の採用意欲に関しては採用計画通りに進行している企業が多く、一部業種を除き目立った低下は見受けられない。しかし、状況次第では今後就職活動のWEB化や採用意欲の低下が懸念される。

本学ではWEBによる面談・面接練習・エントリーシートの添削、電話相談等、現状のなかで可能な方法を確立し、学生の支援を継続している。また、令和４年卒学生（現３年生）の就職ガイダンス・対策講座等に関しても春学期の行事はすべて中止としたが、ガイダンスにて案内する予定であった内容をまとめた資料や解説動画等を随時公開するなどしている。引き続き、全面的なサポートを継続していく。

令和元年度卒業生　就職状況　R2.5.1現在

学科		卒業者 A	就職希望者 B	就職者 C	就職率 C/B
神道	男	53	44	44	100.0%
	女	13	10	10	100.0%
	計	66	54	54	100.0%
国文	男	52	40	40	100.0%
	女	51	42	40	95.2%
	計	103	82	80	97.6%
国史	男	55	47	47	100.0%
	女	25	24	23	95.8%
	計	80	71	70	98.6%
コミュ	男	56	45	45	100.0%
	女	35	29	29	100.0%
	計	91	74	74	100.0%
教育	男	97	83	80	96.4%
	女	139	125	124	99.2%
	計	236	208	204	98.1%
現日	男	88	84	79	94.0%
	女	20	19	19	100.0%
	計	108	103	98	95.1%
合計	男	401	343	335	97.7%
	女	283	249	245	98.4%
	計	684	592	580	98.0%

●保護者対象就職講演会・説明会を開催します。
➡詳細は本紙６面下

高校・中学校

高中で入学式

4月７日に皇學館中学校、同月９日に皇學館高校の入学式が開催され、中学校は32名、高校は378名の生徒が入学した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため保護者は参列せず、新入生は全員マスクを着用して式に臨んだ。

今年は特例として体育館で執り行われた高校入学式。換気をし、間隔をあけて着席するなど徹底した感染防止策がとられた

今年度就任した木村元茂学校長は式辞の中で、「何かをなそうとすれば、まず、決意しなければならない。強く決意した瞬間、結果がすぐそこにある。ただそれは形として見えないだけだ。この見えない結果を見える形にするのは、他人からの指示を待つのではない自主的かつ具体的な行動である」との言葉を贈り、これから新たな学校生活を迎える生徒たちへのエールとした。

代表して宣誓する大西梓菜さん

新入生を代表して中学校では川本こまちさんが、高校は大西梓菜さんが入学を許可されたことを受け、建学の精神に基づき勉学、学業に励み、皇學館生としての誇りと自覚をもって行動することをそれぞれ宣誓した。

マスクを着用し式に臨む生徒（中学校）

「疑うことの自由」を心に留めて

第55回 皇學館高校卒業式　第39回 皇學館中学校卒業式

新型コロナウイルス感染拡大防止のため一斉休校が実施される中、３月２日に皇學館高校（346名）、同月14日に皇學館中学校（32名）の卒業式が挙行された。いずれも規模を縮小して執り行われ、ごく少数のご来賓と卒業生、その保護者のみが参列する形となった。

上／大学記念講堂で行われた高校の卒業式
下／答辞を読む大東さん

式辞において「先を見通すことが難しい時代だからこそ、主体的に行動する人であってほしい」と訴えた上村桂一学校長（当時）。さらに心に留めてほしい言葉として現代物理学の巨人のひとりであるオスカー・クラインの「疑うことの自由」を紹介。「科学者としての自然な態度は、偉大な先人に学ぶことであり、先人たちもそうしてきました。しかし、時には、偉大な先人を疑うという自由を行使することもまた、科学者としての自然な態度なのです」として、未知の問題を解決していく力が求められる今、学び取るだけではなく、自分で考え、探求し、自ら判断することを通してそれぞれの知を創造していってほしいと締めくくった。

卒業証書を受け取る松崎さん

上村学校長の式辞の後、高校では大東海晴さんが、中学校は井村風海大さんが答辞を述べ、倉田山での３年の学びを礎に、さらなる飛躍を誓った。

受賞者一覧

高校	神宮大宮司賞	川端友華
	学校法人皇學館理事長賞	柴原奏音
	三重県知事賞	渡邊時丸
	日本私立中学高等学校連合会会長賞	髙橋悠香
	伊勢商工会議所会頭賞	大井悠
	体育・学芸功労賞	大井悠
中学校	特別優等賞	松崎陸
		井村風海大
	三重県知事賞	松崎陸
	日本私立中学高等学校連合会会長賞	井村風海大

新学校長 ご挨拶

皇學館高等学校・中学校長
木村元茂

本年４月、高等学校・中学校長を拝命いたしました。本紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

今、日本そして世界は大きな変革の中にあり、私たちはこの時代を生き抜いていかなくてはなりません。日本はもちろんのこと、世界に目を向けていく必要があります。そのために、まず日本人としてのアイデンティティを持ち元気に伸び伸びと生きていく素養を身につけてほしいと思っています。本校の建学の精神である、「清明正直な人格と、豊かで高潔な日本人の精神を備えた国際人の育成」は正にこのことを言い表しています。

高等学校・中学校では国際的な視野と感性を磨くグローバル教育やICTをはじめとする様々な教育環境を整え、自ら考え課題を解決していく能力を身につけることができるよう力を注いでいます。「覚える」ことにとどまるのではなく、知識を蓄え「考える」へ成長を遂げ、夢や希望に向かっていく、そのことを実現できるよう取り組んでいきたいと考えています。

今後より一層の発展のために、本校の伝統を大切にしつつ、全教職員が一丸となって目指す学校像を実現できるよう力を尽くしたいと思っています。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

中学校

英語で伊勢ガイドツアー報告

昨年度の２月27日（木）に、３年生が「英語で伊勢ガイドツアー」を実施しました。英語力向上と自国文化・多文化理解を目的とした本プログラム。インドネシア・ベトナム・アメリカ・モンゴル・インドなど、今年度も世界各国からの留学生をお招きし、内宮とおはらい町を英語で案内しました。

「てこねずし」を味わいながら談笑

顔合わせ後は、事前に準備をしたガイドブックとガイド原稿をもとに、伊勢神宮の歴史や手水・参拝の仕方、昼食時はてこね寿司や伊勢うどんなどの伊勢名物を英語で説明。留学生にも気さくに優しく話しかけて頂き、ガイド中や昼食中、移動中と様々な場面で雑談にも花を咲かせながら楽しくコミュニケーションをとる姿が見られました！

これまでに実施してきたオンライン英会話やシンガポール・マレーシア修学旅行での経験を生かし、集大成として絶好の英語実践と交流の機会となった今回のガイドツアー。今後も日本文化の発信と異文化理解を通して国際的な視野を広げていってほしいと思います。

手水の作法を英語で説明

英語科主任　小林誠治

教学振興会　寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館 理事長　小串和夫

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、令和元年度におきましても多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして皆様方のご芳志に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨今の教育を取り巻く環境の変容は著しいものがあります。そのような状況下において、教学振興会では我が国の歴史・伝統を学び祖国を愛する心を涵養するとともに、社会有為の人材を育成すべく、様々な修学支援を行ってまいりました。ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げ、本学園に学ぶ学生・生徒たちが更なる充実した教育環境で成長していけるよう、鋭意努力いたす所存でございます。

ここに令和元年度にご入会いただきました皆様方のご芳名及び寄付金納入状況をご報告させていただきます。

今後とも教学振興会への温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和元年度ご入会者芳名

企業

三重県　株式会社伊藤工務店様

館友

北海道　常磐井　武　榮様
秋田県　新野　直　吉様
山形県　石原　純　一様
福島県　西　道　典様
栃木県　青山　隆　生様
東京都　安川　忠　正様
新潟県　佐藤　恵　美様
富山県　長岡　芳　典様
石川県　大瀧　武　恭様
　　中山　啓　旭様
　　福山　直　己様
長野県　寶達　周　子様
　　傘木　則　興様
岐阜県　熊崎　清　男様
　　栗本　明　徳様
静岡県　浅原　春　莱様
　　岸岡　史　将様
　　龍尾　司　郎様
　　堀池　恭　平様
愛知県　岩田　孝　夫様
　　岡地　喜代春様
　　加藤　眞　理様
　　斎藤　徳　蔵様
　　中村　浩　崇様
　　野々山　麻　怜様
　　松田　晃　輝様
　　森　友佳子様
三重県　森　容　子様
　　森江　裕　様
　　有竹　敦　紀様
　　稲葉　友　香様
　　大西　利　浩様
　　岡田　登　様
　　片岡　敦　子様
　　角　和　将様
　　神田　眞由美様
　　篠原　龍　様
　　芝　信　子様
　　芝　博　一様
　　中野　友妃子様
　　橋本　好　史様
　　畑野　健　様
　　平本　貴　典様
　　村田　文　廣様
　　茂木　大　一様
　　山邉　敬　枝様
滋賀県　大角　勝　洋様
京都府　土肥　ひだか様
大阪府　足立　涼　様
　　浦　美智子様
　　木積　康　弘様
　　土屋　雅　史様
　　西田　弥須子様
　　松村　純　男様
兵庫県　田中　宗　則様
　　林　垂　栄様
　　古舞　陽　暁様
和歌山県　林　純　弘様
島根県　澄川　秀　範様
　　福田　実　様
岡山県　岡崎　義　弘様
　　谷村　昌　枝様
　　藤井　崇　行様
広島県　飯田　航　様
山口県　阿武　正一朗様
　　丸茂　広　知様
　　宮原　和　正様
高知県　斎藤　久　子様
福岡県　阿部　重　信様
　　佐々木　朗　子様
　　東　典　子様
　　平田　雅　旦様
　　箕田　文　孝様
大分県　橋本　敬　様
　　橋本　眞　様
宮崎県　宇都宮　正　洋様
　　黒岩　昭　彦様

令和元年度　教学振興会寄付金納入状況報告

令和２年３月31日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	113	5,495,000	4,445,000
企業	13	780,000	620,000
館友	578	5,344,000	3,489,000
萼の会会員	410	2,780,000	1,925,000
高等学校保護者	116	985,000	700,000
中学校保護者	29	325,000	250,000
一般（篤志家等）	8	186,000	126,000
本法人関係	137	1,140,000	920,000
合計	**1,404**	**17,035,000**	**12,475,000**

萼の会会員

神道学科
　伊藤　和　代様
　上野　嘉　浩様
　加藤　昭　一様
　小山手　修　造様
　坂野　文　俊様
　山東　寿　和様
　高井　範　和様
　谷口　薫　様
　長尾　靖　様
　中島　初田郎様
　中野　由貴子様
　中村　直　樹様
　中山　光　則様
　濱口　誉　久様
国文学科
　日比野　健　様
　堀江　淳　一様
　松村　昌　徳様
　牟田　良　二様
　吉田　裕　史様
　古堅　留　美様
　秋田　一　彦様
　安保　正　之様
　伊藤　享　司様
　鈴木　直　己様
　髙原　勝　行様
　中林　弘　信様
　橋本　英　久様
国史学科
　小掠　卓　己様
　折戸　和　孝様
　梶本　康　文様
　木村　学　二様
　小瀬　和　人様
　鈴木　徹　様
　手倉森　克　美様
　戸上　浩　一様
コミュニケーション学科
　奥岡　宗　久様
　奥村　優　様
　木下　克　己様
　日下　長　豊様
　越地　憲　孝様
　積木　修　二様
　中川　直　彦様
　花谷　茂　子様
　兵頭　隆　様
　福吉　奈　々様
　古川　力　様
　松岡　守　様
　村井　直　人様
教育学科
　安積　滋　様
　伊藤　輝　幸様
　内田　真　理様
　落合　堅　司様
　亀井　敏　之様
　喜多　洋　二様
　小見山　幸　弘様
　斉藤　雅　也様
　笹竹　真　様
　土岐　光　演様
　長岡　哲　也様
　中山　淳　様
　夏目　泰　裕様
　西　さや子様
　西野　友　子様
　野沢　善　信様
　服部　悟　様
　濵野　美江子様
　福村　幸　俊様
　古川　秀　志様
　村田　伸　様
　山崎　輝　彦様
　米川　佳　夏様
現代日本社会学科
　尾崎　義　洋様
　片山　亀久生様
　栗巣野　利　様
　小林　央　児様
　杉野　成　生様
　須場　一　馬様
　土性　卓　也様
　中里　光　伸様
　野中　雅　弘様
　華石　雅　男様
　林　誠　一様
高等学校保護者
　池田　朋　史様
　井上　雅　博様
　上野　和　生様
　大井　勝　弘様
　大和　泉　様
　岡崎　靖　博様
　岡本　智　之様
　奥倉　義　則様
　川上　元　也様
　河村　謙　吾様
　木下　厚　様
　楠田　祐一郎様
　金剛　秀　典様
　田岡　洋　司様
　舟瀬　蔀　様
　辻井　正　人様
　津田　久美子様
　寺尾　昇　様
　中川　知　央様
　中西　啓　介様
　中西　光　司様
　原田　幹　様
　林　綾　子様
　松本　裕　美様
　松井　正　裕様
　松山　芳　章様
　藤本　拓　也様
　東浦　雅　信様
　鮒田　真　典様
　増田　裕　彦様
　三宅　順　子様
　森田　一　様
　山賀　久　幸様
　山下　猛　様
　山本　聡　様
　吉田　明　広様
中学校保護者
　阿形　幸　信様
　太田　優　様
　小濵　偉　様
　榊原　秀　樹様
　中北　浩　一様
　中山　伊　都様
　山中　圭　太様
　山本　真　美様
本法人関係
学校法人皇學館教職員
　髙沢　佳　司様
　玉田　貴　裕様
　中谷　寛　汰様
　長谷川　怜　様
　平田　拓　海様
　森　和　子様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名の掲載をご希望されない方々については、別記とさせていただきました。
●館友8名　●萼の会25名　●高校保護者8名
●中学校保護者2名　●本法人関係1名

就職講演会・説明会　保護者対象
開催のご案内　事前申込不要
10月4日(日) 13:00～15:30

就職講演会
13:00～14:30◆621教室
昨年から様変わりした企業と学生の就職状況と保護者のフォロー
講師●江村朋裕氏
株式会社学情 学校企画部 副部長

進路別就職説明会
14:40～15:30
◆神社への就職について（神職養成担当）……622教室
◆企業・官公庁への就職について（就職担当）……621教室
◆教員・保育士への就職について（教職支援担当）……722教室

お問合せ先　皇學館大学 就職担当　TEL 0596-22-6319

Information インフォメーション

人事異動

令和2年4月1日付　（　）内は旧職

法人

理事長　小串　和夫　令和2年3月26日付

大学

採用

文学部准教授　栗野理恵子
文学部助教　谷戸　佑紀
文学部助教　吉井　祥
教育学部助教　澤　友美
教育学部助教　萩原　浩司
現代日本社会学部助教　尾﨑　剛志
研究開発推進センター助教　塩川　哲朗
学生支援部学生担当書記補　大東　奈央
学生支援部教職支援担当教職アドバイザー　米山　公美
学生支援部教務担当事務嘱託　池田　雪絵
学生支援部教職支援担当事務嘱託　牛江　美穂
学生支援部学生担当事務嘱託　大木　雅人
総務部研究開発推進センター事務室事務嘱託　山口　明美

再任用

文学部特命教授　加茂　正典
教育学部特命教授　加藤茂外次
教育開発センター特命教授　中村　哲夫

昇格

文学部教授　松下　道信（文学部准教授）
文学部教授　クリストファー　メイヨー（文学部准教授）
現代日本社会学部教授　関根　薫（現代日本社会部准教授）
教育開発センター教授　板井　正斉（教育開発センター准教授）
研究開発推進センター准教授　佐野　真人（研究開発推進センター助教）
学生支援部部長　堀川　幸寛（企画部広報担当課長）
総務部総務担当主幹　石橋真由美（総務部総務担当主事）
学生支援部入試担当主幹　川合　一禎（学生支援部入試担当主事）
総務部総務担当主査　池山　幸志（総務部総務担当書記）
学生支援部教務担当主査　大津　政紀（学生支援部教務担当書記）
学生支援部就職担当書記　一路　侑杜（学生支援部就職担当書記補）
総務部情報担当事務主査　長谷川寛子（総務部情報担当事務職二級）

配置換

文学部教授　板井　正斉（教育開発センター教授）
総務部図書館事務室司書（業務職二級）　内田　珠未（総務部図書館事務室司書（業務職一級））
総務部図書館事務室司書（業務職一級）　河村有也香（総務部図書館事務室司書（業務職一級））
企画部広報担当課長　北村　典子（学生支援部入試担当課長）
学生支援部学生担当課長　山邉　政彦（総務部情報担当課長）
学生支援部学生担当主査　大橋　結香（総務部総務担当主査）
教育開発センター主査　梅川　紗綾（学生支援部教務担当主査）
学生支援部入試担当事務職二級　奥野美佐緒（学生支援部教務担当事務職二級）

高校・中学校

採用

高校常勤講師　切通　規裕
高校常勤講師　中田　遼
高校常勤講師　中村　友彦
高校常勤講師　松村　峻佑
中学校常勤講師　安井英里子
学校事務部学校事務室（中学校）事務嘱託　三好　良夫

任用

高校・中学校校長　木村　元茂（高校学監）
高校教頭　中川　隆弘（中学校教頭）

昇級

中学校教頭　山形　達哉（中学校教諭）
高校教諭　出口　大貴（高校常勤講師）
高校教諭　古林　弓槻（高校常勤講師）

配置換

高校教諭　中野　黎（中学校教諭）

新型コロナウイルス感染症の影響で学費等の支援が必要な 学生及び 保証人の皆様へ

1 国の修学支援新制度（給付型奨学金・授業料等減免）

●世帯（父母等）の収入が大きく減った人は「家計の急変」として申込みできます。
新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変した学生を支援するため、国の修学支援新制度では、4月、5月、6月を重点支援期間とし、申し込みを受け付けています。

対　　象	住民税非課税世帯及びこれに準ずる世帯の学生（学部生） ※住民税は前年所得をもとに算定されますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、世帯（父母等）収入が大きく減少した場合は、「家計の急変」として申込可能です。 ※急変後の所得（見込）で、所得基準を判定するため、令和元年度に申し込んで対象外となった方も、支援対象となる可能性があります。
内　　容	授業料・入学金の減免、給付奨学金の支給
申請期限	家計急変の場合は随時（事由発生後３か月以内） 第２回…５月29日㈮　第３回…６月30日㈫　※第１回は４月30日㈭で終了 ※この期限までにパソコンで申し込みデータの入力を終えてください。

進学資金シミュレーター（日本学生支援機構HP）
自身が給付・貸与型奨学金の対象となるかなどを大まかに調べられます。

制度の詳細はこちらをご覧ください。
高等教育修学支援新制度の概要（文部科学省特設HP）

2 貸与型奨学金（日本学生支援機構）

●保護者の失職等により家計が急変し、緊急に奨学金貸与の必要が生じた学生に対応します。
●既に貸与奨学金を利用中の人も、更に支援が必要であれば、利用額を増額することができます（ただし、貸与上限額があります）。

対　　象	学部生、大学院生、神道学専攻科生
家計基準	家計急変後の年間所得見込額で基準を満たすかどうか判定 無利子（一種）… 一定年収（700～1,290万円*）以下 有利子（二種）… 一定年収（870～1,670万円*）以下　＊子ども1～3人世帯の場合
申請期限	家計急変の場合は随時（事由発生後12か月以内）

制度の詳細はこちらをご覧ください。
貸与型奨学金の制度概要（日本学生支援機構HP）

その他、本学の学内奨学金（授業料の減免、貸与奨学金）、学生金庫については、本学HP「新型コロナウイルスに関する皇學館大学の対応について」をご覧ください。

お問合せ先●**学生支援部学生担当**　TEL 0596-22-6317

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室（0596-22-8635）へお願い致します。

時　所（■本学　■他）　料金　対象　予約　問合先

7月

17 金　みえアカデミックセミナー2020
『日本書紀』と『古事記』
講師●板東洋介（文学部准教授）
13:30～
三重県文化会館１階レセプションルーム
無料　学外（一般）　有
三重県生涯学習センター　059-233-1151

9月

12 土　皇學館大学ふるさと講座
古代天皇と名張
講師●清水　潔（名誉教授／学事顧問）
14:00～
名張市防災センター研修室
無料　学外（一般）　有
名張市教育委員会　文化生涯学習室　0595-63-7892

開催中止のお知らせ

令和２年度に開催を予定しておりました下記の講座につきまして、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、誠に勝手ながら、開催を中止させていただくこととなりました。参加をご検討いただいておりました皆様には、誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。令和３年度以降も各種講座を企画いたしますので、引き続きご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

- **月例文化講座**
- **史料編纂所 公開講座　●史料編纂所 古文書講座**
- **佐川記念神道博物館 教養講座**

中止の公開講座についてのお問い合わせ先

月例文化講座	☎0596-22-8635
史料編纂所 公開講座 および 古文書講座	☎0596-22-6466
佐川記念神道博物館 教養講座	☎0596-22-6471

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場●近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野（06-6625-1771）へお問い合わせください。有料・要予約

6/6 土 15:30～
1日・短期講習会
『伊勢参宮名所図会』を読む
講師●岡野友彦（文学部教授）

6/13 土 15:30～
1日・短期講習会　**消えた「系図一巻」**
講師●荊木美行（研究開発推進センター教授）

6/27 土 15:30～
1日・短期講習会　**『日本書紀』を読む**
「応神天皇（２）」　講師●大島信生（文学部教授）

7/4 土 15:30～
1日・短期講習会　**伊勢神宮と東大寺**
講師●多田實道（文学部教授）

7/11 土 15:30～
1日・短期講習会
『日本書紀』の「別巻」をめぐって
―奈良時代のアーカイブ―
講師●荊木美行（研究開発推進センター教授）

7/25 土 15:30～
1日・短期講習会　**『日本書紀』を読む**
「仁徳天皇（1）」　講師●大島信生（文学部教授）

8/1 土 15:30～
1日・短期講習会
古代摂津国の伝説と風土記
講師●橋本雅之（現代日本社会学部教授）

8/22 土 15:30～
1日・短期講習会
神道と仏教「社寺と妙見信仰」
講師●河野　訓（学長／文学部教授）

8/29 土 15:30～
1日・短期講習会　**『日本書紀』を読む**
「仁徳天皇（2）」　講師●大島信生（文学部教授）

9/19 土 15:30～
1日・短期講習会　**伊勢神道の成り立ち**
講師●岡野友彦（文学部教授）

早期展示会でお気に入りの1着を見つけよう!

卒業式衣裳レンタル学内展示会開催

日時　7/2 木 10:00～16:00
　　7/3 金 10:00～16:00
場所　9号館1階
　　小会議室（皇學館サービス前）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、展示会は内容変更、中止（または延期）する可能性がございます。詳細は、皇學館サービスHP及び学内掲示板にてご確認ください。

すぎしんスペシャル特典
1. 当日外宮前特設会場で着付・ヘアアレンジができるので、手ぶらでラクラク!
2. 謝恩会後、学内で脱いでそのまま帰るのでとっても便利!
3. レンタル価格より10%OFF
4. 半巾着、きんちゃく、草履を無料レンタル
5. 謝恩会のゲストドレスがどれでも6,000円でレンタル!
6. 着付&ヘアの早朝料金も無料!

お問い合わせ　KOGAKKAN Service Co.,ltd.
皇學館サービス株式会社
TEL 0596-22-8561 E-mail k-service@kogakkan.co.jp
皇學館サービス株式会社は学校法人皇學館100%出資会社です。
【取扱商品】各種保険・下宿斡旋・旅行・貸衣裳・スーツ他
衣裳提携先 SUGISHIN
すぎしんは創業66年を誇る三重県最大の老舗衣裳店です。

卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

過去、現在、そして未来

神道学科　吉本　祐

奉職先　出雲大社

神職って格好良いな、神職になりたいな。

そんな漠然とした夢を叶えるために４年前の春、皇學館大学に入学した。寮で出会った先輩や友人のおかげで、新生活への不安はあっという間に消えた。しかし、一般家庭から神道学科に入ったため、勉強面や将来のことはとても不安だった。それ故、将来の選択肢や視野を広げたいと思い、神職課程の他に博物館学芸員課程も履修した。勉強面はハードだったものの、視野は広がった。神社実習と博物館実習を終える度、私の中で理想とする神職像が見えてきた。私は神職としてひたすら神明に奉仕しつつ、私たちの祖先が信仰してきた証である宝物を守り伝えられる神職になりたい。今後、神社という長い歴史の一端を担うが、その一端を欠くことなく後世に伝えていきたいと思う。私がこのように思うきっかけとなった大学４年間での学びや経験を糧に日々精進していきたい。

何事も一生懸命に

国文学科　堀井美里

就職先　株式会社第三銀行

４年間を大好きな国文学とともに過ごしたいと思い、国文学科を選んだ。入学前は文学研究は一人でするものだと思っていたが、授業やゼミで仲間たちと文学について話し合い、解釈を深め合えた日々は充実していた。部活動も書道部に入部し、仲間と切磋琢磨しながら技術を磨き、部長として部の運営に関わったことで、部員と共に喜びも苦難も共有して、よりよい部活動にすることができた。この４年間で出会えた仲間たちとの思い出は、かけがえのないものとして一生、心に残るものとなるだろう。

また、社会人として必要な協調性や洞察力などのスキルを、時に厳しく、しかし温かく教えてくださった先生方、支えてくれた両親には心から感謝したい。皇學館大学で学んだことを胸に、これからも「何事も一生懸命に」という姿勢を貫き、日々を歩んでいきたいと思う。

関わっていただいた全ての人に感謝

国史学科　髙瀬和輝

就職先　伊藤ハムミート販売西株式会社

皇學館大学文学部国史学科に入学して４年が経った。国史学科では高校までの日本史の授業とは違い、より深く専門的な知識を先生方から学ぶことができた。希望していた近代史ゼミ（田浦ゼミ）に入ることができ、卒業論文では、昭和戦時期における地域と神社の関わりをテーマとし、地元の神社に残されていた昭和19年～21年の一次史料（日誌）を読み解きながら研究を進めた。くずし字で書かれた史料を読むのには苦労したが、新たな事実が明らかになる醍醐味を味わい、４年間の勉強の集大成としてとてもいい経験ができた。４月から担当になった長谷川先生のゼミでは、卒論期間中みんなで図書館に集まり書き進めたことで、ゼミの仲が大変深まった。部活はサッカー部に所属し、良い先輩や後輩、そして同級生の共に戦う仲間とも出会うことができた。

大学での４年間は大変なこともあったが、国史学科のようなとても良い学科で学ぶことができた。最後に大学に行かせてくれた親、たくさん面白い講義をしてくださった先生方、関わっていただいた全ての人に感謝しています。本当にありがとうございました。

恵まれた環境で学べた幸せ

コミュニケーション学科　青木天平

就職先　岐阜県中学校教員（国語）

思い返すと、この大学４年間は勉強の毎日であった。教師を志し、講義の予習・復習はもちろん、資格取得に向けて勉強したり、教育ボランティアに参加したりした。採用試験前は図書館に通い詰め、勉強する日々。そして、やっとの思いで夢を掴み取った自分を、私は褒めたい。

しかし、自分の力だけではきっと達成できなかった。応援してくれた家族や友人、先生の存在が、夢に挑戦する原動力となった。本当に感謝しています。

私は、小学校から大学までの学生生活において、最もこの４年間が充実していたと感じている。伊勢神宮があり居心地のよい地域、自分の夢が実現可能な整った学習環境、自分を温かく迎え入れてくれた友人や先生の存在。恵まれた環境で学べた私は、幸せ者だった。

４月からは、教師として新たなスタートを切る。日々勉強し、次は生徒の夢を応援したい。

思い出深いミュージカル

教育学科　荒木美来

就職先　三重県小学校教員

皇學館大学に４年も通ったことが嘘みたいだ。それくらい時間はあっという間に過ぎてしまった。大学では、たくさんの出会いがあり、その一つひとつがかけがえのない宝物である。今年は新型コロナウイルスの影響により、謝恩会や卒業式が中止となったが、それでも皆のおかげで「卒業後にまた会おう」と前向きでいられた。

大学生活の中で一番思い出に残っているのは、４教ミュージカルにキャストとして取り組んだことである。この活動を通して、役者としてのスキルだけでなく、「人を楽しませるとはどういうことなのか」を真剣に考え、また、表現することの楽しさを心から味わうことができた。そして何より、仲間とともに協力し、達成する喜びを感じられたことが本当にうれしかった。これほど、有意義な学校生活を送ることができたのは、仲間や家族、そして、いつも支えてくれる先生方のおかげである。今まで温かく見守ってくださり、本当にありがとうございました。

周りの支えがあり、今の自分がある

現代日本社会学科　奥谷行宏

就職先　JR西日本（西日本旅客鉄道株式会社）

学生生活を振り返ると、主に部活動に力を入れてきた。４年間所属していた硬式野球部では１年生から試合に出していただき、苦楽を仲間と共にした。正直良いことばかりではなく、思うように結果が出なかった時もあり、野球をやめたいと思ったことさえある。そんな時、支えてくれたのが野球部の仲間、友達、顧問の先生方、そして家族だ。今思い返せば辛い時、苦しい時、いつも周りの人の支えがあった。おかげで今の自分がある。私に携わってくれたたくさんの人たちに感謝の気持ちでいっぱいだ。

学生生活を通して礼節や仲間の大切さなど、様々なことを学ばせていただいた。これからも学んだことを忘れず、社会人として恥じない人生を送っていきたい。私にとって、最高の学生生活であった。

この一年を神職としての基礎に

神道学専攻科　小久保有祥

奉職先　神宮

暖かくなり、春が近づく中で、昨年の春、皇學館大学に入学したことを思い出す。専攻科で過ごした一年間はあっという間だった。

講義や祭式などに必死だった春学期。太宰府天満宮での神社実習に神宮実習と、講義では知ることができない神社実務にも触れることができた夏季休暇。卒業に向けて、何事にも集大成となり、大忙しだった秋学期。専攻科生全員で斎行した修了奉告祭。全てが自分の身になる良い思い出である。

この４月から、神宮に奉職し、神社界に飛び込んでいくことになる。この一年間を神職としての基礎とし、祭祀を厳修することは勿論のこと、多方面に努力を怠ることなく、神明奉仕に努めたい。

また、教授の方々、神職養成部の皆様、専攻科生には本当にお世話になった。この場を借りて、感謝を申し上げたい。一年間本当にありがとうございました。

本当の贅沢は人間関係の贅沢

大学院教育学専攻　澤　友美

就職先　皇學館大学

12月31日、「お疲れさま」と研究室を後にして、１月１日、「おはよう」と言って研究室で挨拶を交わす。生物学ゼミでは有り触れたお正月。朝は９時から夜は深夜まで365日中360日研究室で研究する生活を２年間続けた。理系の大学院では当たり前だが、文系の大学では珍しいのかもしれない。４年間の社会人を経験し、一念発起して退職、進学を決め２年間は同期とルームシェアをして研究に没頭した。

昆虫生理学と理科教育学の２本柱で研究を行う研究室で、毎日昆虫達と向き合い研究を行った。学生同士のディスカッションは、時に厳しく、時に優しく、議論が白熱した時は夜が明けることさえあった。研究成果は外へ向けて発信した。初めて参加したタイでの国際学会。南アフリカで開催された学会での口頭発表。どんな時も一緒だったのは同期や後輩、そして先生であった。共に学び、共に笑い、共に泣いた学友はまさに一生の宝物。そして、家族以上に濃厚な時間を過ごした、もう一つの家族である。

「本当の贅沢というのは、ただ一つしかない。それは人間関係の贅沢のこと。」本当に贅沢な２年間であったと感謝して止まない。今後は母校にて次世代の育成に尽力したい。

K-らいふ 全学一体

Activity Report of 2019

令和元年度 活動報告

1-2● 退任によせて
2● 令和元年度 奨学金授与者 ほか
3● 教育学科有志 卒業記念ミュージカル ほか
4● 研究開発推進センタートピックス
●神道研究所 ●佐川記念神道博物館 ●史料編纂所
1-4● デキゴトロジー

退任によせて

令和元年度に退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

「人に感謝し、礼を尽くす」

文学部教授　外山秀一

平成四年に本学に着任して二十八年になります。当初は教養科の教員として、十五年からはコミュニケーション学科に配属となりました。その間、学科主任や学長補佐、附属図書館長を拝命しました。

この二十八年間を振り返ると、研究面では「遺跡の環境復原」や「東アジアの稲作の起源と伝播」をテーマに科学研究費補助金や企業などの研究助成を受け、これまでに海外七カ国と国内の三百を超える遺跡の調査と分析をしてきました。その成果として単著八冊を上梓するとともに、共著・分担執筆や論文、学会発表、講演などを行いました。また、稲作の起源と伝播について、両陛下（当時）が御関心を示され、平成十八年の九月に皇居で両陛下と九十分にわたり御懇談をさせていただくという身に余る光栄に浴しました。

教育面では地理学関連の講義科目とゼミを担当してきました。受講生は毎年千五百人超を数え、十六期を担当したゼミでは、「虹の会」と称するゼミ卒生と現役生との懇談会を毎年開催。ありがたいことに、すばらしいゼミ生たちに恵まれました。

社会活動では、国際日本文化研究センターや総合地球環境学研究所、橿原考古学研究所などの共同研究員のほか、徳島大学や岡山理科大学大学院、放送大学などで集中講義を担当しました。

学生たちには、夜会や夜ゼミ（夜の酒を導くゼミ）を通して、「人に感謝し、礼を尽くす」ことを心がけるようにと伝えてきました。社会に出て直面するのが組織のなかの人間関係で、このことを忘れないでいただきたいと願います。

最後になりましたが、大学の教職員の皆様と卒業生、在学生に、心より厚く御礼を申し上げます。

本当に幸せな十四年間でした

教育学部教授　加藤茂外次

蜩の声を聞きながら、面接のために初めて旧一号館の教育研究室を訪れてからもう十五年の時が流れました。

五十歳を過ぎて皇學館大学に奉職させていただいたことは僕の人生の中で大きな出来事でした。ずっと芸術畑で教えてきた自分が、教育学科で何ができるのか不安を抱えながらも、これから始まる新たな挑戦に胸を躍らせていました。

旧図工室と準備室はなかなか昭和な作りで、ネズミにコードをかじられてしまうようなところでしたが、僕はその準備室で夜な夜な作品の制作やギターの練習などして、一日の大半を大学で過ごしていました。ストーブの上の薬缶の湯の音、どことなく不気味な深夜の一号館の闇、今思えば、懐かしくも温かな思い出です。準備室の前には大きな桜の木があり、季節が移るたびに扉の前に吹き寄せられる無数の桜の花びらや紅葉の織りなす色彩は忘れることができません。

その図工室も八号館の中に新しく生まれ変わり、とても使いやすく、窓から眺める景色もずいぶん変わりました。この十四年間で少しでも学生にモノを作る楽しさ、創造することの喜びを伝えられたとしたら、微力ながら皇學館の教育にお役に立てたのかもしれません。こんな歳になってしまいましたが、これからの人生、ひとりの画家として力の限り夢に向かって、生きていこうと思います。本当に幸せな十四年間でした。皇學館大学に勤めさせていただき本当にありがとうございました。

教員生活の最後を皇學館で過ごせた幸せ

教育学部教授　中村哲夫

平成二十年四月、教育学部の一期生と共に入学という感じで、皇學館大学教育学部に赴任しました。それから十二年の月日が流れました。当初は学部所属の教員は初代の学部長を含めて三名で、他の先生方は文学部教育学科の先生でした。赴任後数年間は、兼担教員として、主に文学部教育学科の学生の授業を担当しました。

当時、教育学科の先生方の研究室は旧一号館にありましたが、そこには空き部屋がないため体育館管理室奥の部屋が研究室に割り当てられ、現在の九号館が建設されるまで三年半そこに居ました。夕方になると部活動に勤しむ学生の声が聞こえ、雨が降ると外の競技の部員たちも加わり、エントランスやホール、階段等でのトレーニングの姿や彼らの掛け声で活気のある空間に変わりました。今となっては懐かしい思い出です。

この間、教職員の皆様、尊の会の役員や館友会の方々をはじめ多くの皆様に大変お世話になりました。教員生活の最後を、皇學館大学で過ごせたことを幸せに思います。十二年間ありがとうございました。

四月からは、教育開発センターの特命教授として、微力ながら本学の発展に尽力できればと思います。何とぞよろしくお願いいたします。

感謝

皇學館高等学校・中学校校長　上村桂一

平成二十四年四月から八年間、高等学校学監として、その後、中・高等学校校長として、皆様に大変お世話になりました。私は、教育行政に携わる期間が長かったために、教職に就いて以来こだわり続けた教科指導について不全感のようなものが残っていたのですが、学監としての四年間は僅かながら物理の授業を担当させていただき、講義や様々な実験のほか、教材の開発、ICTの活用など、やりたかったことを思う存分にさせていただきました。

平成二十八年四月に中・高等学校長を拝命いたしましたが、当時は、情報化・グローバル化の進展によって学力観の転換が求められ、さらに地域の急激な少子化が始まる頃でした。そうした中で、どうすれば地域の皆様から選ばれる中・高等学校になれるかについて先生方に議論を重ねていただき、法人役員の皆様、事務局職員の皆様のお力添えのもと、他校に先駆けて、新たな学力観に基づく指導法の導入とそれを可能にするICT環境の整備を進めていただきました。

皇學館は、これからの時代を支える人を育てる役割を担っています。皇學館の益々の発展と、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

令和元年度 デキゴトロジー 行事日誌

大学

4月

- 3日 入学式
- 10日～7月30日 春学期通常講義開始 通常講義終了
- 13日 共催講座〈日本の神々の信仰／荘厳な神社（伊勢と出雲）〉 白山芳太郎（神道・教授）
- 17日 月例神宮参拝
- 20日 天皇皇后両陛下奉送迎～18日
- 24日 共催講座 1日・短期講習会〈風土記にみる日本文化〉 橋本雅之（現日・教授）
- 25日 河野訓学長就任披露（神宮会館）
- 27日 神道学会総会、国文学会総会、史學会総会、コミュニケーション学会総会、教育学会総会、現代日本学会総会
- 30日 月例文化講座①〈古代の大嘗祭〉 加茂正典（神道・教授）
- 創立記念日

5月

- 11日 共催講座〈日本の神々の信仰／優美な神社（賀茂と宇佐）〉 白山芳太郎（神道・教授）
- 12日 月例文化講座②〈平安時代の即位礼・大嘗祭〉 佐野真人（研究開発推進センター・助教）
- 16日 国文学会文学散歩〈長谷寺ぼたんまつり〉
- 17日 史學會歴史散歩〈新緑の大和　橿原から長谷・宇陀へ〉
- 18日 学友会役員会、公開総務委員会
- 月例神宮参拝
- 共催講座 1日・短期講習会〈『日本書紀』を読む／仲哀天皇〉 大島信生（国文・教授）
- 研究開発推進センター史料編纂所第1回公開講座〈学史研究とその意義　考古学の先覚者たち〉 荊木美行（研究開発推進センター・教授）〈蒲生君平生誕250年記念 前方後円墳の名付け親蒲生君平から学ぶ〉 阿部邦男氏（蒲生君平研究家・博士）
- 19日 萼の会役員会
- 23日 萼の会総会・教育懇談会
- 25日 第56回現代日本塾〈競業から協業へ～持続可能な社会を創る～〉 長井一浩氏（一般社団法人Green Down Project 理事長）
- 31日 佐川記念神道博物館教養講座①〈伊勢学事始Ⅱ「古事記・日本書紀から知られる天照大御神と伊勢神宮」〉 毛利正守氏（大阪市立大学名誉教授）
- 共催講座 1日・短期講習会〈大阪湾前方後円墳をめぐって―垂水・淡輪―〉 遠藤慶太（国史・教授）
- 佐川記念神道博物館特別展「即位礼と大嘗祭」前期展〈皇位継承のすがた〉～8月31日

6月

- 8日 共催講座〈日本の神々の信仰／庶民に慕われる神社（天神さま）〉 白山芳太郎（神道・教授）
- 9日 オープンキャンパス
- 15日 月例文化講座③〈伝国詔宣―中世院政下の皇位継承―〉 岡野友彦（国史・教授）
- 16日 共催講座 1日・短期講習会〈本居宣長と古事記　古事記伝〉 田中康二（国文・教授）
- 三重県生涯学習センター×皇學館大学×南伊勢町協働講座〈「道行竜」の酒造り～竜方の誇りと文化を伝承するための新たな挑戦～〉 千田良仁（現日・教授）
- 17日 月例神宮参拝
- 20日 第57回現代日本塾〈知られざる日本とポーランドの絆〉 河添恵子氏（ノンフィクション作家）
- 22日 佐川記念神道博物館教養講座②〈伊勢学事始Ⅱ「伊勢地方に生育する種子植物のルーツについて」〉 伊藤千鶴氏（元皇學館高等学校教諭）
- 共催講座 1日・短期講習会〈日本刀の精神性―神道から見た刀剣―〉 岡野友彦（国史・教授）・福井款彦氏（熱田神宮文化研究員）
- 27日 全日本学生柔道優勝大会 出場～23日
- 神道学科・神道学会共催講演会〈近代の神道と山岳宗教―教派神道を中心に―〉 宮家準氏（慶應義塾大学名誉教授）
- チャレンジプロジェクト公開プレゼン
- 29日 共催講座 1日・短期講習会〈『日本書紀』を読む／神功皇后(1)〉 大島信生（国文・教授）
- 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座①〈古代文書を読む（第1回）〉 荊木美行（研究開発推進センター・教授）

7月

- 5日 研究開発推進センター神道研究所公開学術講演会〈奈良・平安時代の太上天皇〉 中野渡俊治氏（清泉女子大学文学部教授）
- 6日 月例文化講座④〈近世の大嘗祭と朝儀復興〉 松本丘（神道・教授）
- 13日 共催講座〈日本の神々の信仰／庶民に慕われる神社（お諏訪さんと祇園さん）〉 白山芳太郎（神道・教授）
- オープンキャンパス～14日
- 18日 第58回現代日本塾〈不登校は必ず減らせる〉 工藤弘氏（長野県安曇野市豊科東小学校教諭）
- 20日 共催講座 1日・短期講習会〈神道学の基礎知識―皇位継承と伊勢神宮―〉 佐野真人（研究開発推進センター・助教）

「自分らしく」挑戦を

高等学校常勤講師　中谷寛汰

まず、はじめに新型コロナウイルスの影響もあり、みなさんとお別れの挨拶もできないまま退任ということになりましたことをお詫び申し上げます。

新二・三年生になる皆さん、進級おめでとうございます。ならびに皇學館高校に入学されました皆さん、ご入学おめでとうございます。私は地歴公民科の教員でした。年齢が皆さんと、さほど離れていないということもあり、よき関係を築けていたのにこのようなこととなり、未練と悔いが残る次第です。ですが、皆さんに最後に一つ伝えます。「自分らしく」様々なことに挑戦してください。現代の日本では、どうしても周囲の人の目を気にすることや、自分の意見や考えを他者に伝えられないという人が多いように感じます。皇學館高校に在籍する皆さんは、一人ひとりが個性あふれる、すばらしい人しかいません。もう少し、自分に自信をもってください。

昨年度の一年間で、多くの事を学びました。私にとっては、かけがえのない一年間になりました。感謝しかありません。あなたたちの人生は、まだまだこれからです。信頼できる先生、仲間との関わりが今後の人生に絶対に活きてきます。あなたたちのことは一生忘れません。私のことも忘れないでください。心から応援しています。また、どこかで出逢えることを祈っています。ありがとうございました。お元気で。

生徒の笑顔がエネルギーの源

中学校常勤講師　戸上幸

この一年間で関わった生徒たち、大変お世話になりました保護者の皆様方、皇學館中学校・高等学校の先生方、関係者の皆様方に厚く感謝申し上げます。

昨年度末、中学校へ着任した日から三月までのことを振り返っていました。入学当初は大きかった制服もちょうど良い感じになり、顔つきも考え方も中学生らしくなった新中二生。中学生になり初めての後輩たちに、頑張る姿を見せてくれた新中三生。最高学年として、後輩たちをまとめ引っ張ってくれた新高一生。一年間で身体も心も大きく成長をしていく生徒たちに関われたことを嬉しく思っています。そして、教えているはずの私が、生徒たちから教わることのほうが多く、さらに生徒一人ひとりの明るい挨拶や笑顔が私のエネルギーの源でした。

一年という時間でしたが、皇學館中学校に教員として教壇に立てたことは、これからの私の人生において貴重な糧となりました。さらに、母校の存在は、私の心の支えになってくれていると改めて感じることができました。この経験を胸に刻み、一歩ずつしっかりと歩んでいきます。

最後になりますが、皇學館の益々のご発展と、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。一年間、ありがとうございました。

教職員人事

令和２年３月31日付

大学　退職

文学部特別教授　上野秀治
文学部特別教授　白山芳太郎
文学部教授　加茂正典
文学部教授　外山秀一
文学部教授　中川照将
教育学部教授　加藤茂外次
教育学部教授　中村哲夫
現代日本社会学部助教　灰谷和代
教育開発センター特命准教授　近藤玲介
研究開発推進センター准教授　大平和典
研究開発推進センター（事務室）主査　大井恵子
学生支援部教職支援担当書記補　大橋杏子
学生支援部就職マッチングコーディネーター　田間敏明
学生支援部教職アドバイザー　山口正雄
学生支援部学生担当学生寮 臨時現業職員　西尾恵美子
学生支援部教務担当 臨時事務職員　村木望未

高校・中学校　退職

高校・中学校校長　上村桂一
高校教諭　丹羽喬
高校常勤講師　川瀬千晴
高校常勤講師　中谷寛汰
高校常勤講師　松田緋菜里
中学校常勤講師　戸上幸
学校事務部学校事務室（中学校）事務嘱託　小椋猛

令和元年度 奨学金授与者

学内奨学金授与

●給付奨学金（十万円）
国文学科三年　上嶋真実
国史学科三年　山岡加奈
教育学科三年　佐伯穂乃香
現代日本社会学科三年　杉村真子

●岡田奨学金（十万円）
現代日本社会学科四年　内山裕加里
国文学科三年　須崎亜莉沙
教育学科二年　坪田桃果
教育学専攻修士課程二年　澤友美
国史学専攻博士後期課程二年　京泉勇平

●長谷奨学金（十万円）
神道学科四年　松本航佑
神道学科三年　丹生谷悟士

●慶光院俊奨学金（十万円）
神道学科四年　神谷萌日
国史学科三年　中屋早貴

●安部奨学金（十万円）
神道学科四年　杉本秀司
神道学科三年　田中南帆
神道学科二年　千蔵富貴
神道学専攻科　小久保有祥

●館友会奨学金（十万円）
神道学科三年　田中千晴
国史学科三年　野呂明日香
コミュニケーション学科三年　市川真理子
国文学科三年　山本奈々美
教育学科三年　佐脇美登梨
現代日本社会学科三年　上地基

●蓼の会教育奨励賞（図書カード二万円分）
神道学科四年　村田聖
国文学科四年　小林真亜莉
国史学科四年　前川莉奈
コミュニケーション学科四年　青木天平
教育学科四年　田川春菜
教育学科四年　福井悠希菜
現代日本社会学科四年　鈴木里佳
神道学科三年　閑田翔太
国文学科三年　安保花音
国史学科三年　髙木和真
コミュニケーション学科三年　田中ゆいな
教育学科三年　桂なつみ
教育学科三年　三日尻果林
現代日本社会学科三年　吉川享良
神道学科二年　中谷聡
国文学科二年　市川桃子
国史学科二年　小松侑未
コミュニケーション学科二年　河宮優香
教育学科二年　中西陽菜
教育学科二年　本田果穂
現代日本社会学科二年　佐藤空

学外奨学金授与

◆神社本庁育英奨学金（三十万円）
神道学科四年　草間盛也
神道学科三年　松村明洋
神道学科三年　八鳥亜未
神道学専攻科　堀江一宏

◆伏見稲荷大社奨学金（二十四万円）
神道学科四年　内堀詔太
神道学科四年　河原正知

◆神宮特別奨学金（二十万円）
神道学科四年　吉田健真
神道学科三年　駒井一

◆全国敬神婦人連合会奨学金（十五万円）
神道学科一年　上田萌乃

◆八坂神社奨学金（十万円）
神道学専攻博士前期課程二年　紀ノ崎剛

令和元年度 新刊書籍のご案内

皇學館大学出版部

令和元年度に出版された新刊本のご紹介です。

SWEARING OATHS AND WAGING WAR: People, Place, and Ritual Practice within the Ōtomo Warrior Band in Sixteenth-Century Japan
クリストファー・メイヨー著
2808円＋税　A5判・193頁
16世紀日本においてキリスト教の伝播は社会秩序への脅威であったが、伝統的礼儀作法が秩序維持に果たした役割を論じた。

皇學館史話
大平和典 著　3234円＋税　B6判・376頁
久邇宮朝彦親王や賀陽宮邦憲王の御事蹟、皇學館の歴史の一場面を描く小論や資料紹介を収録。

講演叢書　B6判・本体価格1188円＋税
皇學館大学講演叢書 一七二輯～一七七輯
平成三十年度月例文化講座『さまざまな資源から見た伊勢神宮の魅力』

第172輯◆橋本雅之
第173輯◆メイヨー・クリストファー
第174輯◆中松豊
第175輯◆渡邊毅
第176輯◆小林郁
第177輯◆齋藤平

ご注文の際は 大学ホームページから、もしくは右記へお電話 または FAXにてご連絡ください

TEL・FAX 0596-22-6320 皇學館大学出版部
●書名・冊数・住所・氏名・電話番号をお知らせください。
●お支払いは郵便振込にてお願いします。
●別途送料（400円）をご負担いただきますので、ご了承ください。

●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座①〈古代文書を読む（第２回）〉荊木美行（研究開発推進センター・教授）
27日 ●共催講座 １日・短期講習会〈『伊勢参宮名所図会』を読む〉岡野友彦（国史・教授）
28日 ●佐川記念神道博物館夏休み親子教室（第１回）〈作って遊ぼう貝合わせ〉（神宮徴古館と共催）

8月

1日 ●みえアカデミックセミナー２０１９〈江戸時代の皇位継承儀礼〉松本丘（神道・教授）
●神道研究所夏休みこども講座〈神饌ってなあに？〉
5日 ●フィールドワーク ～12日
●佐川記念神道博物館夏休み親子教室（第２回）〈作って遊ぼう貝合わせ〉（神宮徴古館と共催）
8日 ●オープンキャンパス
10日 ●共催講座〈日本の神々の信仰／庶民に慕われる神社（秋葉さんと愛宕さん）〉白山芳太郎（神道・教授）
17日 ●共催講座 １日・短期講習会〈『日本書紀』を読む／神功皇后(2)〉大島信生（国文・教授）
19日 ●海外インターンシップ（マレーシア） ～24日
24日 ●共催講座 １日・短期講習会〈戦国貴族の生き残り戦略〉岡野友彦（国史・教授）
●皇學館大学ふるさと講座〈山伏とその活動～能・狂言鑑賞の一助として～〉多田實道（国史・教授）
●蓼の会地区別教育懇談会（名古屋・伊勢会場）
25日 ●蓼の会地区別教育懇談会（浜松・津会場）
26日 ●海外インターンシップ（中国） ～30日
●8月学位記授与式（卒業式）
31日 ●蓼の会地区別教育懇談会（福岡・名張会場）

9月

1日 ●蓼の会地区別教育懇談会（神戸・四日市会場）
4日 ●フィールドワーク ～14日
14日 ●月例文化講座⑤〈近現代における大嘗祭の要点と課題〉新田均（現日・教授）
●共催講座〈日本の神々の信仰／氏族と密着した神社（春日さんと熱田さん）〉白山芳太郎（神道・教授）
16日 ●皇學館DAY２０１９
17日 ●神社関係者懇談会・協議員会
20日 ●9月学位記授与式（卒業式）
●9月入学式
21日 ●秋学期通常講義開始 ～R2年1月28日 通常講義終了
●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座②〈近世文書を読む（第1回）〉谷戸佑紀（研究開発推進センター共同研究員）
28日 ●共催講座 １日・短期講習会〈皇室の基礎知識Ⅲ　元号の歴史と意義〉松本丘（神道・教授）
●研究開発推進センター史料編纂所第２回公開講座〈末永雅雄博士と狭山池〉荊木美行（研究開発推進センター・教授）〈王者のひつぎ―狭山池に運ばれた古墳石棺―〉西川寿勝氏（大阪府立狭山池博物館）
●全日本学生柔道体重別選手権大会 出場 ～29日

10月

1日 ●佐川記念神道博物館特別展「即位礼と大嘗祭」後期展〈今に伝わる古の祭儀〉 ～12月21日
5日 ●月例文化講座⑥〈『日本書紀』にみる即位と大嘗祭〉大島信生（国文・教授）
●共催講座 １日・短期講習会〈中世院政下の皇位継承〉岡野友彦（国史・教授）
6日 ●保護者対象就職講演会・説明会
11日 ●連携協定事業NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー〈皇位継承と伊勢神宮〉佐野真人（研究開発推進センター助教）
12日 ●共催講座〈日本の神々の信仰／海の信仰（宗像と厳島）〉白山芳太郎（神道・教授）
14日 ●第31回出雲全日本大学選抜競走 出場
15日 ●初穂曳
17日 ●神嘗祭神宮参拝・御大礼奉祝式
19日 ●佐川記念神道博物館教養講座③〈伊勢学事始Ⅱ「伊勢神宮と東大寺」〉多田實道（国史・教授）
●全日本学生柔道体重別団体優勝大会 男子団体出場 ～20日
20日 ●第20回高校生英語スピーチコンテスト
22日 ●即位礼正殿の儀
24日 ●第59回現代日本塾〈SDGsを活用したソーシャル・アクション〉山藤旅聞氏（未来教育デザインConfeito共同設立者）
26日 ●倉陵祭 ～27日・オープンキャンパス
●国文学会研究発表会

11月

3日 ●秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会出場
7日 ●第60回現代日本塾〈ラトビア神道って何？～欧州最後の"異郷の地"から～〉ウギス・ナステビッチ氏（ラトビア神社本庁 渉外担当理事）
●寮主催教育講演会〈部下の命を預かるとは〉渡部年晴（精華寮寮長）
9日 ●月例文化講座⑦〈大嘗会和歌〉深津睦夫（国文・教授）
●共催講座〈日本の神々の信仰／海の信仰（住吉さん）〉白山芳太郎（神道・教授）
13日 ●月例神宮参拝
14日 ●国文学会講演会〈『桃花源記』を読む〉三浦國雄氏（大阪市立大学名誉教授）
●コミュニケーション学会講演会〈心の学びを将来に活かす～臨床心理士や公認心理師の仕事の実際～〉三後美紀氏（人間環境大学准教授）

伊勢市との連携事業
第七回「伊勢」と日本スタディプログラムを開催

主に欧米文化圏で日本学を専攻する外国人の大学院生等が伊勢の歴史・文化や神道についての学びを深め、各国へ情報発信を行うことを目的とする「伊勢」と日本スタディプログラムが本年も二月十七日～三月六日までの間、本学を拠点に開催された。

本年は十カ国から十二名が参加した。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、一部の参加採用者が来日不可となった。また三月に入ってからは見学先の一部が閉鎖される等の影響を受けたが、手洗い・消毒等の遵守、「三密」回避の徹底等、感染拡大防止について参加者の理解や協力を得て、ほぼ予定通りのスケジュールを消化し、無事に終了することができた。

ミツマタの木の前で伊勢和紙の解説に聞き入る（大豐和紙工業㈱様）

二月二十四日には三重県主催によるインバウンド・トーク「わたしが見た伊勢と斎宮」が本学で開催され、参加者十二名は各々の国の観光について紹介した後、来場した約百名の市民らと観光振興に関する意見交換を行った。その中で、ペトロワ・アナスタシアさん（ロシア・女性）は「伊勢の魅力的な場所（神宮・河崎・二見等）は点在しており、点と点を結ぶ有機的な取り組み次第でより活性化するのではないか」と意見を述べた。

祭式作法体験で装束を纏う

滞在最終週の三月五日に実施された成果発表会では、伊勢や神道に関する熱心な発表が続き、また質疑応答も活発で、例年同様に予定時刻を大きく過ぎての終了となった。エバンズ・アレキサンダーさん（米国・男性）による明治期以降の朝熊山の変遷に関する発表「朝熊山の近代化」では、普段、伊勢を拠点とする私たちが知らない内容も盛り込まれ、場内では頷く人の姿が多く見られた。

本プログラムでは、これまで二十七の国々から九十二名の参加者を受け入れてきた。毎回、参加者間はもちろんのこと、本学の学生や伊勢市民をも巻き込み、国籍を越えた友情が育まれている。最終日の三月六日には鈴木健一伊勢市長へプログラム完了の報告を行ったが、その中でサヘル・エルハムさん（イラン・女性）は、「国家間の緊張が激化する現代において、互いに異なる背景を持つ人々や文化間の交流から生まれる相互理解は今なお重要だ。その意味で本プログラムは学修はもちろんのこと、世界平和にも貢献している」と感想を述べた。

国際交流の意義は、諸外国の文化を通して自己や自国の文化をより深く知り、他者を理解することにある。地域で学び合うこの草の根交流が年月を重ねる度に折り重なり、地域のさらなる活性化に繋がることに期待したい。

第三十四回 卒業記念ミュージカル
一般公開中止も 子どもたちに思い馳せ熱演

新型コロナウイルスの影響を考慮し、第三十四回卒業記念ミュージカル津・伊勢公演の一般公開が中止となった。学生たちは保護者や教職員らが見守るなか空席の向こうにいる子どもたち、観衆に思いを馳せ、力いっぱいに演じた。

毎年、約三千人が来場するなど好評を博している教育学部有志による卒業記念ミュージカル。今回も二月二十九日（土）に津・三重県総合文化センターで、三月七日（土）・八日（日）に本学記念講堂で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため観覧を関係者に限定して上演された。昨年度、三年生ボランティアとして参加し、今年実行委員長を務めた森樹貴矢さんは「一般公開中止の連絡が入った時はみんなショックで言葉も出ない感じでしたが、次の日には気持ちを切り替え、前向きに取り組んでいました」と振り返る。

演題は「夢の力をとりもどせ！～令和のはじまりは旅のはじまり～」。少年レイが夢の国の姫・マリアを連れ去ったジョーカーたちと戦い、夢の国を救うべく奮闘する物語だ。「子どもたちに楽しんでほしいという全員の思いが詰まった作品」と自負する森さん。一方で、「様々な意見を集約し、みんなが納得できる形にするのが難しかった」と話す。そこで森さんは何事も独断で進めず、実行委員に相談したり、メンバー全員の投票で決めるなどして活動に反映させた。また、担当者が決まっていない仕事は率先して引き受け、進捗状況を可視化し全体を見通せるようスケジュール表を作成するなど積極的に情報共有を図った。一人で抱え込まず、頼るべき時は素直に頼るのが森さん流。「『困ったことがあったら言ってね』とメンバーから声をかけられた時は本当に嬉しくて、心強かったです。昨年度の経験や、小学生の頃、自己中心的だった僕を『みんなの意見を聞くことが大事』ときちんと叱ってくれた担任の先生の存在も大きかったですね」。

全員が４年間の学びのすべてをぶつけた卒業記念ミュージカル

森さんはじめメンバー同士が助け合い、四年をかけて培った学びの成果をぶつけたミュージカルはクイズやかくれんぼ、手遊びなど子どもたちが一緒に楽しめる参加型の仕掛けが満載。迫力あふれる戦闘シーンや各場面にぴったりの選曲も相まって会場は盛り上がり、惜しみない拍手が送られた。

長年の夢をかなえ、この春から小学校の教壇に立つ森さん。「少しでもやりたい気持ちがあるのならぜひ参加してほしい。みんなで頑張ってきたものが一つになり、やってよかったと必ず思えるから」とミュージカルへの思いを後輩に託した。

津公演の様子をYouTube特別公演として配信中！
https://youtu.be/LqfNp4Z3Jxk

令和元年度 学長奨励賞

■団体の部

書道部
●第36回読売書法展出展、書道部員12名が入選（うち2名が秀逸を受賞）

排球部女子
●東海バレーボールリーグ1部昇格、皇后杯東海地区大会に三重県代表として出場

駅伝競走部
●第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走出場、15位（10／14）
●秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会出場、19位（11／3）
●東海学生駅伝3連覇、大会記録更新、次年度出雲駅伝の出場権を獲得（12／1）

柔道部
●全日本学生柔道優勝大会出場（6／22・23）
●全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場（10／19・20）

■個人の部

福島怜奈（教育1）
●Japan Ballet Competition兵庫2018にて審査員特別賞を受賞、日本・インドネシア親善ガラ公演にゲストダンサーとして出演（4／30）

尾西永遠（教育2）［団体出場］
●eスポーツの世界大会「Identity V（第五人格）」CALL OF THE ABYSS II」日本地区大会にチーム出場し準優勝。ワールド決勝トーナメントに日本チームメンバーとして出場（4／30～5／2）

［書道部］**森 菜々子**（国文4）
●第36回読売書法展において秀逸賞を受賞

［書道部］**名倉芳美**（教育3）
●第36回読売書法展において秀逸賞を受賞

［駅伝競走部］**川瀬翔矢**（現日3）
●秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会出場、2区区間新記録（11／3）
●第74回日本体育大学長距離競技会男子5千mの部7位（11／17）、八王子ロングディスタンス1万mの部優勝（11／23）
※上記2大会の記録により、第22回世界大学クロスカントリー選手権大会の日本代表に選出

三木彩花（国文4）
●「ふみくら倶楽部」の活動をまとめた報告記事の執筆と投稿原稿の採択、業界誌である「図書館界」（日本図書館研究会）1月号に掲載

岡村真衣（国文3）
●「第21回図書館総合展」におけるミニフォーラムへの登壇（11／12）「手品資料のアーカイブと活用について」というテーマで講演

［柔道部］**松田悠佑**（国文4）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**安田悠人**（国文4）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**東 翔陽**（国史4）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**清水唯斗**（現日4）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**南里方紀**（現日4）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**上田虎徹**（教育2）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）全日本ジュニア柔道体重別選手権大会出場（9／14・15）

［柔道部］**新井健太郎**（教育2）
●全日本ジュニア柔道体重別選手権大会出場（9／14・15）

［柔道部］**上林山未来**（教育2）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**南 夏貴**（現日2）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**竹内直巳**（現日2）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

［柔道部］**髙橋麻莉弥**（教育1）
●2019アジアオープン台北出場（8／1～5）
●2019世界柔道選手権出場（8／25～31）
●グランドスラム大阪2019出場（11／22～24）
●Southeast Asian Games 2019 Philippines出場（11／30～12／9）

［柔道部］**下沢直生**（現日1）
●全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／28・29）

池邉龍平（国文1）
●第74回国民体育大会成年男子10mエア・ライフル立射（60発）決勝19位

坂井淳一郎（現日3）
●第58期学友会総務委員長として、学生のクラブ活動活性化に尽力

井上貴斗（現日1）
●第27回JOCジュニア・オリンピック・カップ フェンシング大会兼2020年世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会選考会出場（1／10）

高校

4月
8日 ●始業式
9日 ●入学式
10日 ●1年生スタディサポート
11日 ●1年生オリエンテーション～15日
12日 ●対面式・1年神宮参拝
16日 ●遠足
17日 ●天皇皇后両陛下奉送迎～18日
20日 ●3年生保護者対象進路説明会
30日 ●創立記念日

5月
9日 ●校友会総務委員会
11日 ●保護者会総会
13日 ●中間考査～16日
16日 ●校友会総会
27日 ●教育実習～6月15日
31日 ●三重県高校総体～6月2日

6月
8日 ●第1回公開授業
2年保護者対象進路説明会

中学

4月
6日 ●始業式
8日 ●入学式
9日 ●対面式
12日 ●1年生オリエンテーション～12日
17日 ●1年神宮参拝
18日 ●天皇皇后両陛下奉送迎～18日
17日 ●3年生全国学力調査
24日 ●第1回実力テスト
26日 ●自然体験学習
30日 ●創立記念日

5月
11日 ●保護者会・後援会総会
16日 ●公開授業
18日 ●校友会総会
25日 ●春季総合体育大会（バド・卓球・バスケ）
30日 ●中間考査～6月1日

6月
5日 ●伊勢市連合陸上競技大会
10日 ●教育実習～28日

12月
5日 ●第61回現代日本塾〈「つくる」「まもる」文化～「令和」によせて～〉上野誠氏（奈良大学文学部国文学科教授）
7日 ●共催講座 1日・短期講習会〈伊勢参宮名所図会』を読む〉岡野友彦（国史・教授）
●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座②〈近世文書を読む（第2回）〉谷戸佑紀（研究開発推進センター共同研究員）
11日 ●皇居勤労奉仕団結成式
14日 ●月例文化講座⑧〈恵み豊かな年を顧みて〉河野訓（皇學館大学学長）
●共催講座〈日本の神々の信仰／霊山（東北・関東）〉白山芳太郎（神道・教授）
17日 ●月例神宮参拝
19日 ●第62回現代日本塾〈外交官の経験から見えた世界の現実〉馬渕睦夫氏（元駐ウクライナ大使）
21日 ●共催講座 1日・短期講習会〈風土記の神、人、里〉橋本雅之（現日・教授）
●研究開発推進センター神道研究所公開学術シンポジウム〈皇位継承を考える〉
●現代日本学会記念講演会〈シンガポールの憲法と国づくり―多文化共生の視点から―〉野畑健太郎氏（豊岡短期大学学長・教授）
16日 ●大嘗祭～15日
●共催講座 1日・短期講習会〈新元号「令和」と万葉集〉大島信生（国文・教授）
18日 ●神道講演会〈大嘗祭を御奉仕して〉山田蓉氏（前宮内庁掌典職掌典次長）
21日 ●史學會講演会〈延喜神名式と式内社〉小倉慈司氏（国立歴史民俗博物館研究部准教授）
23日 ●天皇皇后両陛下「親謁の儀」奉送迎～23日
●佐川記念神道博物館教養講座④〈憲政の神〉尾崎行雄と伊勢〉田浦雅徳（アドミッション・オフィス室長・教授）
26日 ●共催講座 1日・短期講習会〈熊野三山における神仏習合と神仏分離〉河野訓（皇學館大学学長）
●山室山参拝・参拝見学

1月
11日 ●共催講座〈日本の神々の信仰／霊山（中部）〉白山芳太郎（神道・教授）
16日 ●藤本亨伊勢市副市長講演（令和元年度伊勢志摩共生学）
18日 ●月例神宮参拝
23日 ●大学入試センター試験～19日
●上野秀治国史学科特別教授退任記念講演会〈徳川将軍による松平称号授与について〉
25日 ●萼の会役員会
●共催講座 1日・短期講習会〈『日本書紀』を読む／応神天皇(1)〉大島信生（国文・教授）
28日 ●出雲式（精華寮・貞明寮）

2月
1日 ●コミュニケーション学科主催 英語発信力コンテスト
4日 ●中村哲夫教育学科教授退任記念講演会〈国際環境下における1940年幻の東京オリンピック〉
8日 ●教育学会講演会〈ひろみち&たにぞう〉
●共催講座〈日本の神々の信仰／霊山（近畿）〉白山芳太郎（神道・教授）
11日 ●建国記念の日・神宮参拝
15日 ●共催講座 1日・短期講習会〈三国とその後の皇帝即位〉堀内淳一（国史・准教授）
17日 ●皇居勤労奉仕～20日

3月
8日 ●教育学部卒業記念ミュージカル「夢の力をとりもどせ！」YouTube公演
18日 ●学位記・修了証書授与式
31日 ●新入生登学日

研究開発推進センタートピックス

平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる期待がかかる「研究開発推進センター」。令和元年度の活動を報告します。

神道研究所

「平安・奈良時代の太上天皇」——公開学術講演会

公開学術講演会「平安・奈良時代の太上天皇」（中野渡俊治清泉女子大学教授）が令和元年（二〇一九）七月五日（金）、本学四号館四三一教室で開催され、四十九人が参加した。

講演中の中野渡先生

中野渡氏は、古代の太上天皇とは、本来は確実な皇位継承の実現を目指し、新天皇の正当性の保障・補佐が期待されて登場したと指摘。その地位が奈良時代から平安時代にかけて増幅していき、そして皇位の直系継承が安定化する過程において太上天皇は「前天皇」から「天皇の父」という存在へと変化し、最終的には院政という政治形態に発展していくと講じられた。

この講演の内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第七号に収録予定である。

「皇位継承を考える」——公開学術シンポジウム

公開学術シンポジウム「皇位継承を考える」が令和元年（二〇一九）十二月二十一日（土）、本学二号館二三一教室で開催され、一三四人が参加した。

昨年五月一日に、天皇陛下が第一二六代の天皇として御践祚（御即位）になられた。二〇二年ぶりの譲位による皇位継承は平成の御代替わりと異なり、国民の歓喜の中で令和の時代がスタートし、国内だけでなく、世界各国からも大きな関心が寄せられた。このような時期にあたり、一連の皇位継承儀礼を総括して、改めて皇室と皇位継承についての理解を深めることを目的として開催され、今後の皇位継承儀礼のあり方について活発な議論が行われた。発題者等は以下の通りである。

基調講演／所功氏（本学特別招聘教授・京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授）「皇位継承を考える—令和大礼の成果と課題—」、発題／岡田莊司氏（國學院大學名誉教授）「大嘗祭研究について—平成と令和の大嘗祭を終えて—」、藤森馨氏（国士舘大学教授）「平安時代の神璽観」、司会／佐野真人（本学研究開発推進センター助教）

このシンポジウムの内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第七号に収録予定である。

史料編纂所

時宜を得た公開講座、古文書講座が好評

平成三十一（令和元）年度は二回の公開講座を開催した。まず五月には、本学の古い卒業生で、栃木県の中学校・教育委員会で活躍された阿部邦男氏をお招きして、「蒲生君平生誕二五〇年記念　前方後円墳の名付け親蒲生君平から学ぶ」という題目で、蒲生君平の生涯、そして伊勢とのかかわりについて、興味深い話をうかがった。

つぎに、九月には西川寿勝先生をお招きした。先生は、奈良大学をご卒業の後、長らく大阪府教育委員会で文化財行政の方面で活躍するかたわら、古墳の研究の分野で数多くの論文を発表されている考古学者である。現在は大阪府立狭山池博物館に出向され、狭山池および南河内地方の郷土資料等の調査・研究や、狭山池の池底から発見された石棺の研究に尽力されている。特に「平成三十年度特別展　王者のひつぎ—狭山池に運ばれた古墳石棺—」は西川先生が独力で企画されたすぐれた展示で、図録の執筆も含めて、先生の学問を集大成したものである。史料編纂所ではこうした古墳研究の最前線の情報を学生や伊勢周辺の一般市民の方々にも知悉していただくため、狭山池に眠っていた石棺と周辺古墳の関係について先生にお話しいただいた。折しも百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録とも重なり、時宜を得た企画として参加者にも好評だった。

古墳研究について解説される西川先生

そのほか、古文書講座を四回にわたって開催したが、多数の聴講者があったことは例年通りである。また、編纂所では「日本後紀史料」の稿本の作成を継続して実施し、センター紀要の六号にはその成果の一部を公表するとともに、『神宮御師資料』第九輯刊行の準備を進めたが、残念ながらこちらは力及ばず、来年度に持ち越しとなった。

皇學館大学研究開発推進センター教授　荊木美行

佐川記念神道博物館

「伊勢学事始Ⅱ—教養講座」を開催

佐川記念神道博物館教養講座は、平成三十年度より「伊勢学事始」と題して、伊勢とその周辺の歴史・文化・地域性等をテーマに開催している。

大勢の聴講生が訪れた毛利先生の講義

神道博物館は、神道に関する資料とともに、伊勢を中心とする郷土資料についてもその収集・保管・調査・公開を行っており、伊勢歌舞伎関係資料や考古遺物を常設展示し、本講座でもたびたび伊勢に関するテーマを取り上げてきた。また、本学においては、神宮をはじめとする伊勢に関する研究は大きな柱である。

「伊勢学事始」の二年目は、本学ゆかりの教員三名と、元皇學館高等学校教諭の伊藤千鶴先生に、以下のとおりご講演いただいた。

第一回　五月二十五日（土）　七十五名受講
「古事記・日本書紀から知られる天照大御神と伊勢神宮」
講師　毛利正守先生
大阪市立大学名誉教授・前皇學館大学教授

第二回　六月二十二日（土）　八十名受講
「伊勢地方に生育する種子植物のルーツについて」
講師　伊藤千鶴先生
元皇學館高等学校教諭

第三回　十月十九日（土）　六十六名受講
「伊勢神宮と東大寺」
講師　多田實道先生
本学文学部教授

第四回　十一月二十三日（土）　四十名受講
「〈憲政の神〉尾崎行雄と伊勢」
講師　田浦雅徳先生
本学アドミッション・オフィス室長・教授

夏休み親子教室を開催

七月二十八日（日）と八月五日（月）には、神宮徴古館農業館との共催による夏休み親子教室「作って遊ぼう！貝合わせ」を開催した。（詳細は学園報第八十号）

特別展「即位礼と大嘗祭」の開催

天皇陛下の御即位を記念した特別展「即位礼と大嘗祭」が令和元年五月三十一日（金）～十二月二十一日（土）に開催された。前期展「即位の御儀—皇位継承のすがた—」は即位礼の歴史について、後期展「大嘗祭—今に伝わる古（いにしえ）の祭儀—」は大嘗祭の諸儀式について展示し、期間延べ五七七五名にご来場いただいた。（詳細は学園報第八十号）

令和二年度教養講座につきましては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度は中止とさせていただきます。

- 17日 ●月次祭神宮参拝
- 21日 ●東海総体　静岡県 ～23日

7月
- 1日 ●期末考査 ～5日
- 5日 ●校友会本部役員立会演説会
- 6日 ●人権学習①
- 16日 ●クラスマッチ ～17日
- 18日 ●保護者懇談会 ～19日
- 20日 ●終業式
- 21日 ●夏季休業開始 ～8月31日
- 22日 ●オーストラリア語学研修 ～8月4日
- 27日 ●全国高校総合文化祭佐賀大会 ～8月1日 ●南部九州総体2019 ～8月20日

8月
- 17日 ●第14回小学生・中学生英語スピーチコンテスト
- 31日 ●オープンスクールⅠ ～9月1日

9月
- 2日 ●始業式 ●地震避難訓練
- 3日 ●スタディサポート（1・2年）
- 4日 ●保護者会懇談会（3年） ～7日
- 16日 ●皇學館DAY
- 19日 ●皇高祭 ～20日
- 21日 ●1年生保護者対象文理選択説明会
- 25日 ●2年生修学旅行 ～28日

10月
- 1日 ●体育大会
- 12日 ●三重県私学大会
- 15日 ●中間考査 ～19日
- 17日 ●神嘗祭・御大礼奉祝式（休校日）
- 20日 ●オープンスクールⅡ
- 25日 ●みえ高文祭 ～27日
- 28日 ●ポカリスエット・エールキャラバン講演会
- 30日 ●家庭に感謝する日
- 31日 ●中部私学大会・浜松 ～11月1日

11月
- 7日 ●第2回公開授業
- 12日 ●校内実力テスト（1・2年）
- 17日 ●オープンスクールⅢ

12月
- 2日 ●卒業・期末考査 ～6日
- 6日 ●清掃ボランティア活動
- 14日 ●人権学習②
- 17日 ●月次祭神宮参拝
- 19日 ●武道・バドミントン大会
- 20日 ●保護者懇談会①
- 23日 ●保護者懇談会②
- 24日 ●終業式
- 25日 ●冬季休業開始 ～1月7日

1月
- 8日 ●始業式・火災避難訓練
- 18日 ●センター試験 ～19日
- 24日 ●令和2年度入学試験
- 31日 ●合格発表

2月
- 10日 ●建国記念の日の講演

3月
- 2日 ●一斉休校
- 2日 ●卒業式
- 26日 ●春季休業開始 ～4月7日

- 17日 ●月次祭神宮参拝
- 20日 ●1年生宿泊研修 ～21日
- 23日 ●授業公開DAY ●オープンスクール①
- 26日 ●総合学習まとめ

7月
- 13日 ●夏季総合体育大会（バド・卓球・バスケ・テニス）
- 15日 ●私学フェア
- 21日 ●夏季休業開始 ～8月22日
- 22日 ●課外授業 ～26日

8月
- 17日 ●第14回小学生・中学生英語スピーチコンテスト
- 23日 ●授業開始
- 29日 ●第2回実力テスト

9月
- 1日 ●オープンスクール②
- 2日 ●地震避難訓練
- 9日 ●期末考査 ～12日
- 16日 ●皇學館DAY
- 22日 ●皇中祭 ～23日
- 27日 ●伊勢度会陸上大会 ～28日

10月
- 3日 ●保護者懇談会 ～4日
- 4日 ●終業式
- 5日 ●秋季総合体育大会（バド・卓球・バスケ） ～6日
- 7日 ●イングリッシュキャンプ ～9日
- 8日 ●秋季休業 ～10日
- 11日 ●始業式
- 12日 ●三重県私学大会
- 17日 ●神嘗祭・御大礼奉祝式（休校日）
- 27日 ●オープンスクール③
- 30日 ●家庭に感謝する日
- 31日 ●第3回実力テスト

11月
- 1日 ●2年生宿泊研修 ～2日
- 7日 ●授業参観
- 13日 ●シンガポール・マレーシア修学旅行 ～17日
- 15日 ●伊勢市連合音楽発表会

12月
- 2日 ●中間考査 ～4日
- 5日 ●スポーツ大会
- 12日 ●校友会選挙
- 16日 ●人権学習
- 17日 ●月次祭神宮参拝
- 24日 ●冬季休業開始 ～1月7日

1月
- 8日 ●授業開始・火災避難訓練
- 12日 ●A日程入学試験
- 16日 ●人権講演会
- 17日 ●第4回実力テスト
- 21日 ●百人一首大会

2月
- 1日 ●B日程入学試験
- 2日 ●中学卒業茶会
- 10日 ●建国記念の日の講演
- 17日 ●学年末考査 ～20日
- 27日 ●英語で伊勢ガイドツアー

3月
- 2日 ●一斉休校
- 14日 ●卒業式
- 20日 ●春季休業開始 ～4月5日